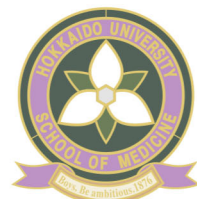


発行所

札幌市北区北15条西7丁目  
北大医学部同窓会  
TEL&FAX (011) 706-5007  
E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp  
https://hokudai-med-dousou.com

編集人 矢部 一郎  
発行人 浅香 正博

# 北大医学部同窓会新聞



## 「復活」

たかし あつし  
高橋 敦(42期)

## CONTENTS

- (1) 同窓会長再任のご挨拶 ..... 浅香 正博  
・北大総長再任のご挨拶 ..... 宝金 清博
- (2) 令和7年度総会・第102期卒業生祝賀会・謝恩会
- (3) 令和7年度総会資料  
・卒業生に贈る言葉 ..... 田中 伸哉  
・第102期生を歓迎して ..... 浅香 正博
- (4) 第102期代表挨拶 ..... 小西 豊穂  
・第102期生名簿 .....  
・第120期医師国家試験結果のご報告 新卒生100%合格 .....  
・第102期同窓会会長報告 ..... 工藤 興亮/矢部 一郎  
・令和7年度同窓会会長報告
- (5) 108期生入学代表挨拶 ..... 大宮 慶祐  
・令和8年4月1年次入学者名簿/・令和8年4月2年次進級者名簿  
・令和8年4月2年次学士編入生名簿 .....  
・名誉教授 中川昌一先生(28期)を偲んで ..... 堀美 達也
- (6) 名誉教授 本間行彦先生(37期)を偲んで ..... 今野 哲  
・教授退任のご挨拶 ..... 貞部 淳/堀美 達也  
・教授就任のご挨拶 ..... 山崎 美和子/佐藤 賢文/前田 拓
- (7) 令和7年度フナ研究奨励賞報告 ..... 大場 雄介  
・亀田 浩之/多田 篤司/三田村 瑞穂/石津 軌高/高橋 正樹
- (8) 令和8年度フナ研究奨励賞受賞候補者の募集!!
- (9) 令和7年度医学研究奨励等「各賞受賞者」  
宮坂 和男/工藤 興亮/山田 勝久/伊東 孝政  
多田 篤司/眞井 瑞子/高橋 正樹
- (10) 新世紀の医学に向けて(54) ..... 船村 剛
- (11) エルムの仲間たちへ(14) ..... 森田 研  
・常勝 ..... 加藤 永生
- (12) 北海道大学医学部同窓会理事会・評議員会議事録
- (13) 新役員・評議員・予備評議員名簿  
・理事・監事/・編集委員名簿/・評議員・予備評議員名簿  
・告知版/・教授就任挨拶/・第52期2026年度同期会のご案内  
・平成50周年記念同期会/・人事異動
- (14) 事務局からのお知らせ/・会費納入方法について  
・ドクター総合補償制度のご案内/・新刊書紹介
- (15) 百年記念館の利用について  
・【お知らせ】北海道大学医学部公式SNS  
北海道医学会からのお知らせ/・北海道医学会事務局員の紹介
- (16) 周年大会が2年を超える会費未納者と同意会員名簿の送達について  
・【令和8年度同意会員名簿】記載事項確認のお願い  
・ご進会者/・同窓会新聞・会誌等のWeb活用について  
・会員名簿・同意会誌の処分にお困りの方へ  
・一面の写真説明/・編集後記

## 同窓会長再任のご挨拶

北海道大学医学部  
同窓会会長

あさ か まさ ひろ  
浅香 正博(48期)

本年3月、北海道大学医学部同窓会評議員会において、会長に再任されました。2012年の就任から数えて丸14年が経過いたしました。この重責を再び担うにあたり、改めて同窓会の発展と、母校である北海道大学医学部への貢献に全力を尽くす所存です。会員の皆様には、これまで以上のご支援とご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

私の在任期間中、同窓会にとって大きな転換点となったのは、2014年に開始した医学部学生の入会制度と想われます。学生時代から同窓会を身近に感じてもらうことで、組織の若返りと活性化を期待いたしました。本年度の卒業式で、優秀な卒業生6名を表彰いたしました。彼らの頼もしい姿を見るにつけ、同窓会の未来が着実に育っていることを実感いたします。かつては卒業後数年間の活動停滞が見られましたが、学生時代から絆を育んだ世代が加わることで、同窓会に新たな風が吹き込まれることを確信しております。

一方で、強い危機感を抱いていることも事実です。会誌を紐解けば、81期から98期までの17年間にわたり、各期便りの空白が続いております。同窓会にとって「同期の絆」は最大の財産です。医

師として、また研究者として多忙を極める時期であることは重々承知しておりますが、この空白は伝統ある同窓会の継続性を揺るがしかねません。同期との繋がりは、年月を重ねるほどにかけがえのない支えとなります。81期から98期の皆様方には、定期的な同期会を開催し、その息吹を「同期便り」として会誌に刻んでくださるようお願い致します。皆様の近況こそが、同窓会という大きな樹の年輪となっていくのです。

2019年には創立100周年を迎え、念願であった「医学部百年記念館」が完成いたしました。この木造作りの素晴らしい記念館を、単なる建物としてではなく、同窓生が集い、語り合い、次世代へバトンを渡すための拠点になってほしいと考えております。

医療を取り巻く環境は激変していますが、北海道大学医学部同窓会はこれからも医学部と二人三脚で、将来を見据えながら共に歩んでまいります。私は100年の歴史を背負いつつ、次の100年を見据えた強固な組織づくりに、残りの任期を捧げる覚悟です。同窓生の皆様の変わらぬお力添えをお願い申し上げ、再任のご挨拶とさせていただきます。

## 北大総長再任のご挨拶

第20代北海道大学  
総長

ほう きん きよ ひろ  
宝金 清博(55期)

4月1日に、文部科学大臣による任命を受け、今後、2030年3月31日まで、本学の総長職の拝命いたしました。改めまして、今回の総長再任に際して、御助言いただきました関係者の皆様に感謝申し上げます。

5年半前の2020年10月に総長に就任して以来、北海道大学の教育・研究を成長させ、それを社会貢献・イノベーションに結実されるために社会共創の制度を強化することに注力してきました。また、こうした大学の進むべき方向を、構成員に理解してもらうために、卓越した教育・研究の卓越性・Excellenceと社会展開力・Extensionという二軸の座標系で大学のミッションを持続可能なWellbeing社会として位置付けた「HU VISION 2030」を発表してきました。

この中で、総長解任という大学の危機を乗り越え、主な公約として掲げていた財務的成長を実現することができました。特に、社会共創では、従来とは異次元のレベルで、北大として地域社会・国際社会に貢献できてきたと思っています。

しかし、指定国立大学法人の要件を満たすことはできたものの、国の制度が国際卓越研究大学に移行したこともあり、この点は、実現していません。あるいは、物価

上昇や人事院勧告による人件費の上昇、あるいは、病院財務の悪化により、北大に限ったことではありませんが、大学の経営は大きく圧迫されました。

こうした5年半の任期を振り返り、再度、総長の責務を引き受けるべきかどうかについては、熟慮いたしました。その上で、いっそう厳しくなる国立大学法人の経営を安定させ、北大がその個性を生かして成長を続け、2030年以降の北大に大きなトーチを繋ぐことが、この4年間の私の使命と考え、今後4年間、精一杯、仕事をさせていただきますことといたしました。

今後の4年間は、国際卓越研究大学制度の行方を注視しつつ、北大が本来の力を発揮し、さらに、財務的にも強固な基盤を持つことができるように、思い切った制度改革を実行します。また、教育・研究の面では、AIが大きなパラダイムシフトを引き起こすことは間違いないと考えております。これに対して、北大として、先制的に動き、AI時代の大学の先頭を走ることを目指します。

私の出身母体であります医学研究院・病院の皆様には、これまで同様にご助言・ご支援をお願い申し上げます。

令和8年4月1日



# 令和7年度総会、第102期生卒業祝賀会・謝恩会

## ■令和7年度総会報告

令和7年度総会は、3月25日（水）午後5時半から札幌グランドホテル別館4Fひなげしにて開催されました。

会議に先立ち、昨年の総会以降にご逝去された81名の会員のご冥福を祈り、黙祷が捧げられました。

総会は評議員会議長の政氏伸夫先生（65期）と副議長の橋本直樹先生（76期）の進行により行われ、最初に浅香正博同窓会長（48期）の挨拶があり、続いて議事録署名人として松島理明先生（80期）及び亀田浩之先生（88期）が指名されました。

協議事項では、1. 令和6年度会計収支決算として大西俊介会計理事（70期）から、収支決算状況について説明の後、審議了承されました。2. 令和6年度会計監査として大西会計理事から、会計処理は適切かつ正確に行われている旨説明の後、審議了承されました。

報告事項では、1. 令和7年度庶務・事業報告として笠原正典副会長（56期）から、会員数の推移、諸会議開催状況、経費支援を行っている医学部学友会事業の実施状況について、2. 令和7年度編集報告として矢部一郎編集理事（67期）

から、同窓会新聞及び同窓会誌の発行について、3. 令和7年度会計収支中間報告として大西会計理事から、収支状況について、4. 令和7年度フラテ研究奨励賞選考結果として大場雄介選考委員会委員長（72期）から、選考経緯及び選考結果についてそれぞれ報告されました。

総会終了後に、令和7年度フラテ研究奨励賞授賞式が大場委員長の司会により執り行われ、亀田浩之氏（88期）、多田篤司氏（89期）、三田村瑞穂氏（92期）の代理人三田村真太郎氏、石津帆高氏（93期）の代理人佐藤知哉氏、高橋正樹氏（93期）の5名に浅香会長から表彰状及び研究奨励金が授与され、お祝いと激励の言葉が述べられました。

## ■令和7年度第102期卒業祝賀会・謝恩会報告

総会に引き続き、午後6時半から札幌グランドホテル2階金枝にて、第102期の卒業生歓迎会が卒業祝賀会・謝恩会と併せる形で開催されました。学位記伝達式を終えた6年生91名と教授および同窓会員45名が参加し、例年になく賑やかな

雰囲気であった会を振り返ります。

司会の近祐次郎先生（74期）と石塚有貴さん（102期）の進行のもと、医学部長の田中伸哉先生（66期）が医師国家試験の新卒合格率が100%であったことを報告するなど挨拶し、開会となりました。

続いて、同窓会長の浅香正博先生（48期）から、これからも同期の絆を長く続けてほしいとのお話がありました。

次に、北海道大学病院長の南須原康行先生（64期）より、自分の意志で努力することの薦めとともに乾杯のご発声いただきました。

歓談をはさみ、第102期卒業生を代表して、小西響稀さんから卒業に際しての感謝と4月からの新生活への決意の言葉がありました。

テーブルスピーチとして、フラテ研究奨励賞受賞者のうち、亀田浩之先生（88期）、多田篤司先生（89期）、高橋正樹先生（93期）から後輩への激励や人生を楽しむことの薦めの言葉が伝えられました。

第102期からの余興として、アンサンブルフラテ（畑中宏太さん、小田島史穂さん）のトロイメライ、3月9日、軽音楽部

（駒野仁美さん、飛騨菜里さん、上田愛さん、人見航平さん、小田島史穂さん）によるスイートメモリーズ、踊り子の演奏がさらに場を盛り上げました。

阿部弘先生（37期）からは、医師は人間の職業の中で最も尊いもののひとつであり、気骨ある医師になるよう激励の言葉がありました。

退職される教授を代表して真部淳先生（61期）から、北大生のポテンシャルは高く、外に出て戻ってきて頑張してほしい、との挨拶があり、続けて第102期の木村実希さんと岸本佳子さんから花束が贈呈されました。

閉会に際して、矢部一郎先生（67期）より、国家試験の結果は第102期の努力の賜物であり、同期や同窓会を大切にしてほしいと、締めめの乾杯の挨拶がありました。

最後には、参加者全員で大きな輪を作り、山谷昂大さん（102期）の前口上にて「都ぞ弥生」を斉唱し、盛況のうちに会は終幕となりました。

（80期 松島理明）



令和7年度同窓会総会



浅香会長、大場選考委員長とフラテ賞授賞者



祝賀会・謝恩会



田中学部長の挨拶



浅香会長の挨拶



南須原北大病院長による開会の挨拶



進行役の近理事（74期）と石塚有貴さん（102期）



卒業生代表挨拶小西響稀君



阿部弘先生のスピーチ



医学部軽音楽部による演奏



退職教授挨拶 真部淳先生



祝賀会・謝恩会の宴



矢部先生の閉会の挨拶



山谷昂大さん102期による 前口上



参加者全員による都ぞ弥生斉唱



## 令和7年度総会資料

## 令和6年度 北海道大学医学部同窓会 会計収支決算書

| 収入(円)       |            |             |             |
|-------------|------------|-------------|-------------|
| (令和7年3月31日) |            |             |             |
| 項 目         | 予算額        | 決算額         | 差 額         |
| 【会費収入】      | 21,000,000 | 19,950,000  | △ 1,050,000 |
| コンビニ収納      |            | 14,452,000  |             |
| 口座引落        |            | 750,000     |             |
| 銀行振込        |            | 1,953,000   |             |
| 郵便振替        |            | 2,795,000   |             |
| 【事業関連収入】    | 170,000    | 120,000     | △ 50,000    |
| 広告収入        | 170,000    | 120,000     | △ 50,000    |
| 【雑収入】       | 1,001,000  | 1,016,923   | 15,923      |
| 利息収入        | 1,000      | 3,728       | 2,728       |
| 保険事務費       | 1,000,000  | 1,013,195   | 13,195      |
| 当年度収入額      | 22,171,000 | 21,086,923  | △ 1,084,077 |
| 前年度繰越額      | 7,637,511  | 7,637,511   | 0           |
| 収入合計額       | 29,808,511 | ①28,724,434 | △ 1,084,077 |

| 支出(円)          |            |             |           |
|----------------|------------|-------------|-----------|
| 項 目            | 予算額        | 決算額         | 差 額       |
| 【事業費】          | 17,438,000 | 17,744,494  | 306,494   |
| 総会・第101期卒業生歓迎会 | 1,000,000  | 729,711     | △ 270,289 |
| 新聞・名簿/会誌印刷関連費  | 9,140,000  | 10,234,663  | 1,094,663 |
| 刊行物送付費         | 3,361,000  | 3,105,190   | △ 255,810 |
| 記念品費           | 500,000    | 150,000     | △ 350,000 |
| 大学支援助成費等       | 1,900,000  | 2,247,000   | 347,000   |
| Webサイト維持・更新費   | 150,000    | 100,320     | △ 49,680  |
| 研究助成費(フラテ賞)    | 1,102,000  | 1,106,700   | 4,700     |
| 学生表彰費(会長賞)     | 100,000    | 38,460      | △ 61,540  |
| 会員登録システム改修費    | 50,000     | 0           | △ 50,000  |
| 寄附者感謝状(楯)作成費   | 135,000    | 32,450      | △ 102,550 |
| 【総務費】          | 8,080,000  | 7,728,061   | △ 351,939 |
| 人件費            | 5,100,000  | 5,043,935   | △ 56,065  |
| 諸保険事業主負担       | 850,000    | 704,063     | △ 145,937 |
| 諸謝金            | 30,000     | 50,000      | 20,000    |
| 会議費            | 250,000    | 179,802     | △ 70,198  |
| 渉外費            | 50,000     | 4,328       | △ 45,672  |
| 旅費交通費          | 150,000    | 27,205      | △ 122,795 |
| 印刷費            | 200,000    | 175,650     | △ 24,350  |
| 通信費            | 330,000    | 297,743     | △ 32,257  |
| 消耗品費           | 220,000    | 287,566     | 67,566    |
| 備品購入費          | 300,000    | 212,263     | △ 87,737  |
| 振込手数料          | 600,000    | 745,506     | 145,506   |
| 【予備費】          | 100,000    | 0           | △ 100,000 |
| 当年度支出額         | 25,618,000 | ②25,472,555 | △ 145,445 |
| 収支差額(繰越額)      | 4,190,511  | ③3,251,879  | △ 938,632 |

次年度繰越額(①-②=③)

## 令和6年度 北海道大学医学部同窓会 特別会計報告書

令和7年3月31日

| 銀行名           | 預金の種類 | 令和5年度<br>(06.3.31)<br>預金額(円) | 期 間<br>受入額<br>(円) | 期間<br>利息<br>(円) | 令和6年度<br>(07.3.31)<br>預金額(円) | 備考       |
|---------------|-------|------------------------------|-------------------|-----------------|------------------------------|----------|
| 三菱UFJ<br>信託銀行 | 定期預金  | 9,541,632                    | —                 | 163             | 9,541,795                    |          |
| 三井住友<br>信託銀行  | 定期預金  | 10,133,627                   | —                 | 237             | 10,133,864                   |          |
| 北洋銀行          | 定期預金  | 12,250,949                   |                   | 266             | 12,251,215                   |          |
| 北洋銀行          | 普通預金  | 4,758,901                    | 500,000           | 2,479           | 5,261,380                    | ※寄附金受入口座 |
| 合 計           |       | 36,685,109                   | 500,000           | 3,145           | 37,188,254                   |          |

## 会計監査報告書

北海道大学医学部同窓会監事として、会則第10条第4項の規定に基づき、令和6年度会計収支決算状況の監査を実施した。

監査の結果、出納簿及び関係書類の整備、並びに特別会計の預金等の会計処理は、適切かつ正確に行われているものと認めた。

従って、令和6年度の北海道大学医学部同窓会の会計処理は、決算書のとおり正当であると認めるものである。

令和7年4月8日 監事 山崎 美和子

令和7年4月14日 監事 加畑 馨

北海道大学医学部同窓会

会長 浅 香 正 博 殿

## 卒業生に贈る言葉

北海道大学医学部長 田中 伸哉(66期)



102期の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんの多くは2020年の入学、まさにコロナ禍が始まったばかりで、大学キャンパスから学生が消えた時期でした。入学式も中止となり、学生生活は想像していたものとは大きく異なるもので、様々な苦労があったと思います。何よりも、同級生との対面での交流がなかったことは、大きなデメリットを感じたことでしょう。しかし皆さんはそのような中でも、前を向き、できる限り多くを学び、しだいに世

の中が落ち着く中で、通常の学生生活に戻って行ったことと思います。この未曾有の事態を乗り越えたことにあらためて敬意を表すると同時に、皆さんは、人として困難を乗り越える大きな力を得たと信じています。国家試験の現役100%合格という嬉しいニュースも、102期の皆さんだから成し得たことと思います。

これから皆さんはそれぞれの道に進むと思います。国民から期待されている皆さんの使命は、優れた臨床能力を培うと

ともに、研究を通じて医学・医療の進歩に貢献できる指導的な医師となることです。行政に進み国民医療に貢献する道もあるでしょう。現在、世界最高レベルにある日本の医療は、多くの先人によって築かれてきたものです。皆さんもまた高い志を持って医学に臨み、多くの患者さんを救い、医学の進歩に貢献するという使命を果たしてください。

優れた医師や研究者になるためには、医学・医療の新しい知識・技術をたゆまなく取り入れていくことが不可欠です。さらには、適確な判断力が必要となります。この判断力を養うためには、研究の場に身を置くことが重要です。医療の第一線で医師として活躍したいと考えている皆さんも、大学院博士課程に進学して、適

確な判断力を涵養していただきたいと思います。北海道を離れる方も多くでしょう。母校はいつでも皆さんを待っています。国内外で臨床医としての腕を極め、その後に博士研究を母校でする先輩もいます。

皆さんは北海道大学を卒業した医師であるといういい意味でのプライドを持ってそれぞれの道を進んでください。札幌農学校の初代教頭クラーク博士が唱えた"be ambitious"(大志を抱け)という言葉は、世紀を超えて北海道大学を支えてきた理念です。この言葉を胸に刻み、大きな夢と高い理想を持ち、自らの能力を最大限に発揮して、皆さんがそれぞれの分野で最大限ご活躍されることを祈念します。

## 第102期生を歓迎して

北海道大学医学部同窓会会長 浅香 正博(48期)



医学部102期の皆さん、ご卒業誠にありがとうございます。北海道大学医学部同窓会は皆さんの卒業を心より歓迎いたします。医学部同窓会は、医学部創設から約40年後の1960年に発足し、現在は7,000名に近い会員を擁しております。2014年より入学時にご入会いただく制度となり、102期生の皆さんは入学以来すでに同窓生として歩みを共にしてまいりました。

振り返れば、皆さんの入学した2020年は、未曾有の新型コロナウイルス感染症が世界を席巻し始めた年でした。晴れの入学式は中止を余儀なくされ、医学部での生活は自宅でのオンライン授業から始まったと記憶しております。友人との語らい、部活動、そして臨床実習の制限など、本来あるべき学生生活を奪われ、多大なる忍耐と苦労を重ねてこられたこ

とと拝察いたします。しかし、そうした困難な状況下でも、知恵を絞り、互いに励まし合いながら医学研鑽に励み、本日無事に卒業を迎えられた皆さんの姿は、私たち先輩にとっても大きな誇りであります。この逆境を乗り越えた経験は、将来、不確実な事態に直面した際の大きな糧となるはずです。

君たちがこれから歩む医療界は、AI技術の進展やゲノム医療の普及など、日進月歩の世界です。医師という職業は、人から直接感謝される喜びがある一方で、生涯学び続ける責任を伴います。どうか、自らの人生設計をしっかりと描き、一歩ずつ着実に進んでいってください

い。本学部は2019年に創立100周年を迎え、医学部百年記念館も完成いたしました。ここには先人たちが築いた歴史が刻まれています。皆さんもその歴史を継承する一員であることを忘れず、広い視野を持って世界に羽ばたいてください。

同窓会は、皆さんのキャリアと人生に對し、できる限りの支援を惜しみません。なお、本会の活動はすべて会員の皆様の会費で賄われております。後輩たちの学びを支えるためにも、毎年の納入を忘れず、同窓会活動へ積極的に関わっていただければ幸いです。皆さんの輝かしい未来に幸多からんことを祈念し、お祝いの言葉といたします。



## 第102期代表挨拶

こにし ひびき  
小西 響稀(102期)

この度、第102期生109名が北海道大学医学部同窓会の一員となりました。僥越ながら、109名を代表し、ご挨拶申し上げます。100年を超える長い歴史を持つ本学医学部ですが、このような伝統ある同窓会の一員となることを大変嬉しく思っております。

振り返れば、私たちの大学生活は、新型コロナウイルスが猛威を振るうなかで始まりました。予定されていた入学式は中止となり、対面での授業や課外活動が

制限されるなど、最初の1年は想像とかけ離れたものだったと記憶しております。

そのような日々を過ごしたからこそ、二年次からの対面での授業や実習は、同期とともに学ぶ楽しさを共有するかけがえないものになりました。授業では最前線でご活躍される諸先生方の貴重なお話を聞き、実習では実際に手を動かしながら人体の構造や仕組みについて学び、医学の奥深さや楽しさを感じながら、刺

激的な日々を送ることができました。臨床実習では、実際の病院の緊張感を肌で感じながら、実践的なご指導の下で学ばせていただきました。患者さんと接するなかで、患者さんやご家族の思いを受け止め、真摯に向き合うことの大切さを実感しました。また、臨床現場を間近で目にし、医師として働くことの責任の重さを痛感すると同時に、医師としての役割を全うしようという決意を新たにしました。

このような6年間のすべての学びは、先生方のお力添えなくして得ることはできなかったと強く感じております。ご尽力いただきました全ての先生方にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

この春から私たちはそれぞれの道を歩み始めました。新たな環境での日々が始

まり、戸惑うことも多々ありますが、これまでの経験や学びを糧に、さらなる知識や技術の向上に励み、ときには困難とも向き合いながら、より一層努力を重ねていく所存です。そして、本学で培ったフロンティア精神と大志を胸に、医療を通して社会に貢献できるよう、精進してまいります。諸先生方には、これからも様々な場面でお世話になること存じますが、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

最後になりますが、北海道大学医学部同窓会のさらなる発展と、諸先生方の益々のご活躍を祈念して、入会のご挨拶とさせていただきます。

## 第102期生名簿(109名)

|        |        |        |        |         |        |        |        |       |        |       |
|--------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|-------|--------|-------|
| 阿部 泰樹  | 伊林 潤   | 小田島 史穂 | 木村 実希  | 駒野 仁美   | 申 智樹   | 塚本 美羽  | 西本 怜央  | 樋口 桃子 | 松下 廉   | 山崎 貴央 |
| 新井 美也子 | 上田 愛   | 片平 天晴  | 木村 竜大  | 斉藤 立真   | 杉尾 凌虎  | 津山 昂来  | 西山 慧   | 飛弾 菜里 | 松永 和真  | 山下 倫暉 |
| 井澤 莉子  | 大久保 穂紀 | 加藤 北都  | 日下 拓也  | 坂倉 星哉   | 鈴木 雄星  | 戸田 壮太郎 | 根上 真菜  | 人見 航平 | 三浦 健太郎 | 山本 若葉 |
| 石崎 裕人  | 大久保 諒一 | 門田 幹生  | 國澤 綾恭  | 坂倉 遼亮   | 関 稜吾   | 中川 しきぶ | 橋本 泰行  | 福岡 奈桜 | 峯崎 信究  | 山谷 昂大 |
| 石田 舜也  | 大島 慧士  | 上村 広大  | 熊谷 達也  | 佐々木 祐一郎 | 高橋 慶匠  | 中島 明日音 | 畑 航明   | 福富 太知 | 美作 匡人  | 吉川 竜平 |
| 石塚 有貴  | 大田 明知  | 川嶋 拓海  | 光島 悠太朗 | 島田 琉海   | 高橋 光成  | 永谷 紗都子 | 畑中 宏太  | 藤井 甚平 | 宮本 裕也  | 吉村 榛人 |
| 石山 飛鳥  | 大西 志の歩 | 完山 百合乃 | 合六 真由  | 嶋本 誠児   | 滝沢 麟太郎 | 中野 開智  | 旗本 雄太  | 藤枝 岳矢 | 森園 圭   | 上瀧 浩邦 |
| 伊勢 英将  | 大村 祐太郎 | 菊池 駿利  | 國分 瑞貴  | 清水 賢    | 田口 周   | 中村 伊吹  | 早川 可奈子 | 藤由 薫慈 | 山内 大翔  | 渡邊 怜亜 |
| 稲垣 大志郎 | 岡本 大樹  | 岸本 佳子  | 小竹 皓貴  | 白土 涼乙   | 玉木 冬多  | 西岡 沙耶香 | 林 竜也   | 細野 航  | 山口 竜之介 | 蔵 翔子  |
| 井口 和彦  | 奥田 琴香  | 木村 公美  | 小西 響稀  | 秦 玉瑩    | 丹野 日生  | 西村 峻   | 樋口 真生  | 牧野 照正 | 山崎 慎司  |       |

## 第120回医師国家試験結果のご報告 新卒学生100%合格!!

教務委員会委員長 画像診断学教室 教授 工藤 與亮(71期)

副研究院長(教育担当)神経内科学教室 教授 矢部 一郎(67期)

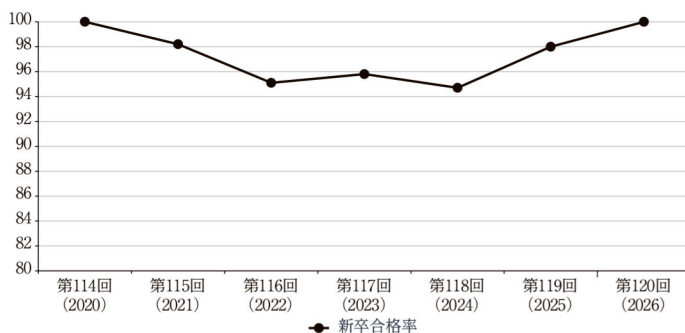
2026年2月に実施された第120回医師国家試験において、本学医学科新卒学生109名全員が合格し、合格率100%を達成しました(全国平均 94.7%)。2020年に実施された第114回以来、6年ぶりの快挙となります。102期卒業生一人一人の努力を誇りに思うと同時に、心よりお祝いしたいと思います。既卒受験者も8名中6名が合格し、合格率75.0%と健闘しました(全国平均 54.6%)。

近年の医師国家試験では、単なる知識を問う設問にとどまらず、より実践的な臨床推論や診療参加型臨床実習に基づ

いた臨床問題が重視されるようになっていきます。今回の結果は、学生自身の研鑽はもとより、日々の教育にあたった教職員、そして長期にわたる臨床実習を快くお引き受けいただいた学内外の病院・施設、関係各所の皆様のご支援とご協力によって得られたものです。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

今後も、豊かな人間性と高い臨床能力を備えた医師・医学研究者の育成に向けて、医学科教職員一同、協力して取り組んでまいりますので、ご指導ご鞭撻いただければ幸いです。

## 新卒合格率推移



## 令和7年度同窓会会長賞報告

本賞は、次の一に該当する医学部医学科を卒業する学生を顕彰することを目的に、平成27年度に創設されました。

- (1) 学業成績に対する表彰  
学業成績が特に優秀で、かつ、人格に優れた者3名以内
- (2) 研究活動に対する表彰  
学会、学会誌等で優れた評価を受けた者
- (3) 課外活動に対する表彰  
全国規模の競技会、コンクール等で優勝した団体の主将、または個人

- (4) 社会貢献に対する表彰  
ボランティア活動、人命救助、災害救援等の社会活動において、活動実績が認められ、他の学生の模範となった者
- (5) その他の活動等に対する表彰  
その他前4号に準ずるもので、同窓会会長賞にふさわしいと認められる者

受賞者は、毎年2月に医学部長から推薦された候補者について選考し、第11回目となる令和7年度は次の6名を受賞者と

して決定しました。

授賞式は3月25日(水)に同窓会長から表彰楯が贈呈されました。

- (1) 学業成績に対する表彰  
小西響稀 稲垣大志郎 戸田壮太郎  
【授賞理由】在学中の学業成績が特に優秀で、かつ、人格に優れている。

- (2) 研究活動に対する表彰  
畑中宏太  
【授賞理由】在学中に統合病理学教室において熱心に研究に取り組みその成果を筆頭著者として日本病理学会総会で発表

し高い評価を得ました

- 宮本裕也  
【授賞理由】在学中に腫瘍病理学教室において熱心に研究に取り組みその成果を筆頭著者として日本病理学会総会で発表し高い評価を得ました

- 上瀧浩邦  
【授賞理由】在学中に衛生学教室において熱心に研究に取り組みその成果を筆頭著者として査読付学術誌に発表し高い評価を得ました



## 108期生入学者代表挨拶

おお みや けい すけ  
大宮 慶祐(108期)

この度、北海道大学医学部医学科第108期生として入学しました、新入生代表の大宮慶祐です。開校150周年を迎えるこの節目の年に、歴史、伝統ある北海道大学に入学できたことを心より嬉しく思います。

私が中学校に入学した年から新型コロナウイルスの感染が拡大し、思い描いて

いた学校生活を送ることができない日々が続きました。休校が続く、オンライン授業となり、友達に会えず苦しい日々を過ごした人が多いと思います。そのような状況乗り越え、北海道大学で学ぶ機会をつかみ取り、エスコンフィールドHOKKAIDOで盛大に入学式を行うことができるなど、制限なく大学生活を送れ

ることに喜びでいっぱいです。

北海道大学は1学年約2600人が共に学ぶ、全国でも極めて規模の大きい大学です。さらに1年生は学部にかかわらず総合教育部に属し、他学部の学生とかわる機会が豊富にあります。自然豊かなキャンパスで、様々な学生とかわりながら学ぶことができる環境は全国的に見ても、とても貴重なのではないのでしょうか。

さて、医学部医学科に入学したからには医師となるべく勉強をしなければならないのはもちろんですが、大切なのは勉強だけではないと思っています。部活をし

たり、遊んだり、バイトをしたりすることも人間性を育むうえで非常に大事なものです。部活仲間とともに遊んだ友達は勉強面でも大きな支えとなりますし、勉強以外の様々な経験は今後の人生を豊かにしてくれるのだと思っています。勉強はもちろん、それ以外の様々な活動にも取り組んで、ともに豊かな人間性を兼ね備えた医師になりたいと思っています。以上をもちまして代表挨拶とさせていただきます。

## 令和8年4月 1年次入学者名簿(90名)

| 氏名     | 出身高校            | 氏名    | 出身高校      | 氏名    | 出身高校         | 氏名    | 出身高校           | 氏名    | 出身高校       |
|--------|-----------------|-------|-----------|-------|--------------|-------|----------------|-------|------------|
| 大宮 慶祐  | 茨城県立並木中等教育学校    | 木村 颯翔 | 北見北斗高校    | 小林 直樹 | 日比谷高校        | 浅野 修仁 | 札幌西高校          | 大澤 一輝 | 北嶺高校       |
| 酒井 若葉  | 桜蔭高校            | 曳野 紗史 | 岡崎高校      | 向川 真加 | 横浜翠嵐高校       | 荒木 実紅 | 札幌南高校          | 大沼乃々葉 | 札幌南高校      |
| 伏屋 慶一  | 岐阜高校            | 山本 瀬羅 | 札幌南高校     | 後藤颯太郎 | 旭川東高校        | 辻 朔太郎 | 北見北斗高校         | 中溝 亮介 | 浅野高校       |
| 岡原 遥成  | 札幌日本大学高校        | 木村 遙参 | 札幌南高校     | 山下 鈴乃 | フェリス学院高校     | 石川 瑛大 | 札幌南高校          | 大関 健斗 | 北見北斗高校     |
| 鈴木茉佑子  | 立教女学院高校         | 藤井さくら | 札幌南高校     | 齊木 徳史 | 芝高校          | 磯村 夏子 | 愛知県立旭丘高校       | 香川 和花 | 日比谷高校      |
| 元岡 秀太  | 愛知県立旭丘高校        | 山本 隆英 | 甲府南高校     | 吉田佳奈恵 | 立命館慶洋高校      | 坪谷 一希 | 暁星高校           | 長江 琢磨 | 清風南海高校     |
| 加賀谷隆之介 | 金沢大学附属高校        | 楠見 士  | 開成高校      | 庄司 拓馬 | 沼津東高校        | 石川 眺多 | 愛光高校           | 太田 颯  | 昭和薬科大学附属高校 |
| 田中 さき  | 福岡県立宗像高校        | 本望 結愛 | 札幌南高校     | 新宮 礼太 | 北野高校         | 内田 はな | 札幌南高校          | 鎌田 香桜 | 札幌開成中等教育学校 |
| 森谷 友貴  | 開成高校            | 吉原 煌音 | 相模原中等教育学校 | 末政裕奈太 | 神戸大学附属中等教育学校 | 戸田 直希 | 東海高校           | 西部山京秀 | 東海高校       |
| 鹿糠 悠人  | 札幌北高校           | 小池 政博 | 名古屋高校     | 鈴木 快  | 北嶺高校         | 岩谷 琢磨 | 聖光学院高校         | 大高 風輔 | 旭川東高校      |
| 友寄 莉子  | 昭和薬科大学附属高校      | 松井由佳里 | 八千代松陰高校   | 鈴木 理公 | 都立青山高校       | 打浪有理子 | 豊島岡女子学園高校      | 刈田 紗花 | 札幌北高校      |
| 山口 大智  | 海城高校            | 吉見 亮洋 | 都立西高校     | 高田 大翔 | 札幌南高校        | 富永 蒼馬 | 奈良女子大学附属中等教育学校 | 長谷川陽土 | 市川高校       |
| 河内 敬蔵  | ラ・サール高校         | 越川 雅也 | 北嶺高校      | 高野 幹太 | 札幌南高校        | 内田 和希 | 愛知県立明和高校       | 大槻 莞大 | 滝高校        |
| 新澤 奏   | 茨城県立並木中等教育学校    | 松本 幸歩 | 大妻高校      | 瀧上 慶斗 | 栄光学園         | 遠藤みのり | 神戸大学附属中等教育学校   | 齋藤あおば | 室蘭栄高校      |
| 山下龍之助  | 愛知県立明和高校        | 脇田 直幸 | 湘南高校      | 梶谷漱二郎 | 白陵高校         | 中川琳太郎 | 札幌南高校          | 長谷川 琉 | 北見北斗高校     |
| 川堀 秀晃  | 北嶺高校            | 木場 琢人 | 早稲田高校     | 浅野 宏輔 | 岐阜高校         | 黄木 羽楓 | 旭川東高校          | 大坪 里仁 | 旭川東高校      |
| 新谷 瑞穂  | 愛光高校            | 丸山 路  | 滝高校       | 新井 杏菜 | 札幌西高校        | 大島 優花 | 洗足学園高校         | 齋藤 夕夏 | 横浜共立学園高校   |
| 山田 竜駆  | 横浜サイエンスフロンティア高校 | 渡邊 富太 | 札幌北高校     | 田邊峻太郎 | 攻玉社高校        | 中澤 崇哉 | 宇都宮高校          | 平田 圭吾 | ラ・サール高校    |

## 令和8年4月 2年次進級者名簿(10名) ※総合教育部から移行

| 氏名    | 出身高校  | 氏名    | 出身高校   | 氏名    | 出身高校   | 氏名    | 出身高校     | 氏名    | 出身高校  |
|-------|-------|-------|--------|-------|--------|-------|----------|-------|-------|
| 越智 陽衣 | 湘南高校  | 黄 拿单  |        | 石田ひまり |        | 中村 天飛 | 愛知県立旭丘高校 | 宇治川直星 | 西大和学園 |
| 山田 幸穂 | 同志社高校 | 本村 勇仁 | 佐世保北高校 | 竹部 正汰 | 私立武蔵高校 | 石黒 蒼人 |          | 河合 遼  |       |

## 令和8年4月 2年次学士編入学者名簿(5名)

| 氏名   | 出身高校 | 氏名   | 出身高校   | 氏名    | 出身高校     | 氏名   | 出身高校  | 氏名   | 出身高校 |
|------|------|------|--------|-------|----------|------|-------|------|------|
| 東 祐介 | 一橋大学 | 舩山 怜 | 慶応義塾大学 | 川崎 秀斗 | 東京医科歯科大学 | 米田 翼 | 北海道大学 | 鶴垣 怜 | 東京大学 |

名誉教授  
中川昌一先生(28期)を偲んで北海道大学大学院医学研究院  
免疫・代謝内科学教室 教授あつ み たつ や  
渥美 達也(64期)

北海道大学名誉教授、中川昌一先生は、2025年8月2日、享年96歳でご逝去されました。

当教室は、初代から3代目まで東京(帝国)大学から赴任された先生が教授をおつとめでしたが、中川先生は当教室の4代目の教授で、初の本学卒の教授となりました。初代教授でいらした中川諭先生のご長男でもいらっしゃいました。

中川昌一名誉教授は、1973年の教授就任前より糖尿病グループのグループヘッドとして、研究チームをリードされて

おりました。とりわけ、インスリンの免疫学的測定法の開発においては、糖尿病学の発展に多大な功績を残されました。加えて、インスリン抗体存在下での遊離インスリン測定法の開発やインスリン自己免疫症候群の抗体解析、インスリンアレルギーにおけるインスリンIgE抗体測定法の開発といった研究もすめられ、日常診療への臨床展開にも大変有用な知見を「Diabetes」誌や「Diabetologia」誌といった糖尿病学のトップジャーナルに掲載され、世界に発信されました。

また、学会活動においても大きく貢献され、日本糖尿病学会北海道支部の初代支部長として就任後、20年以上にわたり北海道の糖尿病学の研究および臨床を牽引されておりました。1982年には北海道で初めて「第25回日本糖尿病学会年次学術集会」を開催され、さらには、1980年と1986年には日本糖尿病学会のpost graduate educational programとしての「糖尿病学の進歩」を世話人として開催されました。日本糖尿病学会北海道地方会においても会長として20年以上連続して開催され、まさに北海道における糖尿病学の礎を築かれました。

私は中川先生の講義や実習をうけて学生時代を過ごし、1988年北海道大学の卒業と同時に第二内科に入学して大学院に入学しました。初期研修と並行

して大学院の研究をおこない、4年後の1992年、中川先生のご退官の年に「最後の大学院生」として学位をいただきました。そして2012年、中川先生の弟子として私が中川先生のご教室をひきつぐことができましたことを、たいへん誇りに思っています。

中川昌一先生の永年にわたる学問、医療そして医学教育に対するご貢献に深く敬意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。







## 名誉教授 本間行彦先生(37期)を偲んで

北海道大学大学院医学研究院  
呼吸器内科学教室 教授

この  
今野 哲(会員2)

名誉教授 本間行彦先生(37期)におかれましては、令和8年2月27日にご逝去されました(享年89歳)。

本間先生は昭和11年に札幌市にお生まれになり、昭和30年に札幌西高校卒業後、北海道大学医学部にご入学されました。昭和36年にご卒業後、北大第一内科に入局されました。昭和47年に

は、オランダ国立グローニンゲン大学研究院にご留学され、北大医学部助手、講師を経て、昭和62年に北海道大学医学部保健診療所の教授に就任されました。平成6年より名称が変わり、北海道大学保健管理センター所長になりました。平成12年に北海道大学を停年退職された後、北海道漢方医学センター・北

大前クリニックを開設されました。

平成13年には日本東洋医学会学術総会(札幌)の会頭をお務めになり、また、第4回北海道新聞学術文化研究奨励賞(昭和58年)、北海道医師会賞・北海道知事賞(平成9年)、日本東洋医学会学術賞受賞(平成13年)を受賞されています。

北海道漢方医学センター・北大前クリニックでは、呼吸器疾患、特に間質性肺炎の患者さんを数多く診られ、本間先生の温かいお人柄を慕い、北海道全域のみならず、本州からも患者さんが通われていました。本間先生の著書である『漢

方が効く 北大名誉教授30年のカルテから』(北海道新聞社)、『特発性間質性肺炎(IIP)のすべて私はIIPをこう診てきた』(西村書店)は、多くの方々を読まれたことと思います。私自身も、北大第一内科入局後の5年間は当科の医局会で、北大を退職された後は、多くの研究会等を通して、大変お世話になり、当科の同門会長もお務めいただき、当科同門会の発展にも大きくご貢献されました。

本間先生のこれまでの長年にわたるご指導に改めて感謝し、ここに謹んで心よりご冥福をお祈り申し上げます。

## 教授退任のご挨拶



生殖・発達医学分野  
小児科学教室  
教授

まなべ あつし  
真部 淳  
(61期)

私は1985年に北大医学部を卒業後、聖路加国際病院で卒後研修を受け、1989年からローマ・カトリック大学とセントジュード小児病院(米国メンフィス)で小児がんの基礎と臨床を学び、1997年からは東京大学医科学研究所で細胞療法と遺伝子治療の研究を行い、2019年、北海道大学小児科学教室の教授に就任し

ました。いわば34年間の海外での回遊を経て北海道に回帰したことになります。戻ってみると、北大病院のインフラは予想以上に良く、小児がん拠点病院に加えて臨床研究中核、がんゲノム医療中核拠点、陽子線治療センターなど、東京からみると羨がそうなる環境でした。さらに2019年に小児白血病に対するCART細胞(遺伝子改変T細胞)治療が保険適応になり、また同年CGP(がんゲノム検査)も保険適応になるという幸運にも恵まれ、小児がん治療は一気に進歩しました。一方、長期フォローアップ体制の確立とともに晚期合併症管理の必要性が痛感され、血液内科、内分泌内科、婦

人科などの成人診療科への移行も必須となりました。これには多職種の協力が必要で、今回、退任に当たり「小児がんのキャンサーボード」という教科書を北大病院のスタッフ45人と書き上げました。

北大に戻って面白かったのは医学生との関わりです。医学生はポテンシャルが高いというか、余裕というか、この学生気質を長い間忘れていました。毎週小児科に回って来る全科実習では、約4人を相手に対話法による実験的授業を90分間、ガチンコで行いました。医学の基本から新規治療の開発、英語の成り立ち(ゲルマン系言語にラテン系言語が乗った)から世界史における医学の話、

小児医療の本質(ヒトの成長と発達の科学)などなど。毎週学生の反応も違えば、見事な切り返しもあり、これぞ大学という最高学府の存在価値を再認識できました。私の趣味も役に立ち、アンサンブル・フラテの仲間と室内楽を共演するなど、とても楽しい思い出をしました。一言でいえば、大学とは年をとりにくい場所なのだと思います。これからもずっと、北大医学部は続いていくでしょう。若い人には海外に出て活躍してほしいですが、ぜひ時々北大に顔を見せ、あるいは教員として戻ってほしいと思います。皆様、7年間お世話になりました。感謝して筆を置きます。



内科学分野  
免疫・代謝内科学教室  
教授

あつみ たつや  
渥美 達也  
(64期)

このたび、2026年3月31日、63歳にて北海道大学大学院医学研究院の定年退職を迎えることになりました。

私が北海道大学・医学進学課程に入学したのが1982年4月でした。当時は法定の卒後研修制度がまだありませんでしたので、初期研修開始と同時に1988年4月に北海道大学大学院医学研究科に入学、1992年3月に博士課程を修了しまし

た。以後、1年半の地域医療機関勤務、3年2か月の海外留学を除いて、一貫して北海道大学に在籍し、本学の皆様のご指導をうけながら、我武者羅にキャリア形成の努力を重ねました。2012年1月に免疫・代謝内科学講座の教授に就任し、その後笠原研究科長のもとで研究担当の副研究科長を2年間経験いたしました。2022年4月には北海道大学副学長・北海道大学病院長を拝命し、病院経営の責任者となると同時に全学の運営に関与する立場となりました。2026年3月、気がついたら北大の門をくぐってから足掛け45年が経過し、人生の一区切りをつけるようになっていました。

私の所属は一貫して北海道大学でした

が、研究テーマも、学生時代に興味をもった全身性エリテマトーデスとその代表的な合併症の抗リン脂質抗体症候群に関するもので一貫していました。厚労省難病研究班ならびに日本リウマチ学会による本邦の全身性エリテマトーデス診療ガイドラインを作成する委員長に就任し、世界に先駆けてこの疾患のガイドラインを発刊したのが2019年でした。その改定版2026がまもなく私の「最後の」仕事として発刊されることになっています。ガイドライン作成にはたいへん多くの人にご協力いただき、とくに初版は、当時当教室の講師で、現在は東海大学教授の奥健志先生、そして改定版には現・准教授の河野通仁先生の尽力を生涯忘れるこ

とはありません。

退職後は、私が病院長のときに制定した北大病院の基本方針の4つめ、「未来を見据えた地域医療・地域社会への貢献」を自ら実践すべく、地域医療の現場で内科の臨床医として活動する所存です。

今日に至るまで、ご指導いただいた諸先輩の皆様、いっしょにアカデミアでの喜びと苦しみをシェアした同輩・後輩たちに、あらためまして感謝を申し上げます。そして、愛する北海道大学のますますの発展をこころから祈念いたします。

## 教授就任のご挨拶



解剖学分野  
解剖発生学教室  
教授

やまさき みわこ  
山崎 美和子  
(78期)

令和8年4月1日付で、北海道大学大学院医学研究院 解剖発生学教室の教授を拝命いたしました。山崎美和子と申します。謹んで新任のご挨拶を申し上げます。

本教室の前身である解剖学第二講座

は大正11年に平光吾一教授により開講されました。その後、兄玉作左衛門教授、伊藤昌一教授、兄玉譲次教授、渡邊雅彦教授へと継承され、本学の解剖学教育・研究の発展を支えてまいりました。平成18年の改組により、解剖学講座は第二・第三講座の二講座体制となりましたが、かつて第一・第二講座が担っていた解剖発生学、神経解剖学、および解剖学実習の伝統は、現在の解剖発生学教室に引き継がれております。歴代の先生方が築いてこられた歩みと精神を継承できることを、大変光栄に感じており

ます。

私は平成7年に北海道大学医学部医学科に入学いたしました。当時、解剖学第一講座を主宰しておられた故 井上芳郎教授や、渡邊雅彦助教授(後に解剖学第二講座教授・北海道大学名誉教授)から解剖学のご指導をいただいたことが縁で、神経形態学の研究に取り組み、これが私の研究の基盤となりました。卒業後、平成14年に金沢大学大学院博士課程に進み、狩野方伸教授(東京大学名誉教授)のもとで神経生理学の手法と視点身を付けました。平成18年に解剖発

生学分野の助手として着任して以降は、解剖学と生理学の両面からシナプス回路研究に取り組み、留学先のYale大学医学部分子細胞生理学教室では膜貫通型分子の複合体解析をはじめとする生化学的解析手法を富田進教授から学びました。今後は、本教室の強みである分子解剖学研究をさらに深化させるとともに、ヒトの脳機能や病態の理解と治療法開発も視野に入れた、学問領域の枠にとらわれない融合的研究を推進していく所存です。

また、教育面におきましては、これまで



一貫して解剖学実習・講義に携わってきました。北海道大学白菊会会員の皆様やご遺族の信頼に応えるべく、質の高い

教育環境の維持・発展に努めてまいります。こうした活動を通じて、次代を担う医師や若手研究者が育つ環境づくりと、

母校および本教室の発展に微力ながら力を尽くしてまいります。同窓会の皆様におかれましては、今後ともご指導とご鞭撻

を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



微生物学免疫学分野  
病原微生物学教室  
教授

さとう けんじ  
佐藤 賢文  
(会員2)

このたび、2026年4月より北海道大学大学院医学研究院 病原微生物学教室にて教授として研究室を主宰することとなりました。伝統ある北海道大学医学部の一員として教育・研究を担わせていただくことを大変光栄に思うと同時に、その責任の重さに身の引き締まる思いであります。九州出身の私にとって北海道の厳しい冬は未知ですが、新しい環境で学び、挑戦できることを楽しみにしております。

私は1997年に熊本大学を卒業後、血液・感染症・膠原病内科学講座（満屋裕明教授）に入局し内科診療を通じて研鑽を積みました。治療が難しい疾患に直面するたびに、「なぜこの病態が起こるのか」を分子レベルで理解し、できるなら診断や治療の開発につなげたいという思いを強くしてまいりました。その後、京都大学大学院（ウイルス研究所・松岡雅雄教授）にてウイルス研究に従事して以来、約25年間、HTLV-1やHIV-1を中心としたレトロウイルス感染症の病原体—宿主相互作用を解明する研究を進めてきました。これらは感染症にとどまらず、がん、免疫の破綻、神経疾患など多様な病態に直結する横断的課題であり、臨床の問いと基礎の解析を往復しながら、

分野を越えて共有できる原理と臨床応用につながる手がかりを積み上げることを大切にしてきました。

病原微生物学教室は、感染症研究と教育の中核として歩みを重ねてきた歴史ある講座です。初代の有川二郎教授は人獣共通感染症研究を精力的に推進され、講座の礎を築かれました。また、前任の福原崇介教授はCOVID-19パンデミック下で学内外の連携を牽引し、社会的要請に応える形で大きな貢献を積み重ねてくれました。私もその流れを大切に受け継ぎ、北海道大学ではレトロウイルス研究を講座の軸として発展させつつ、より広く感染症を視野に入れ、次世代シークエンス、シングルセル解析、デジタルPCR等を統合して病態形成の理

解を深化させ、臨床還元を強く意識した研究を推進します。

同時に、教育と次世代育成を最重要課題と位置付け、微生物学・感染症学を「試験科目」ではなく、将来の診療や研究、公衆衛生で活きる基礎体力として身につけられる授業を目指します。大学院では、問いを立て、データを解釈し、自分の言葉で説明し議論する力を育て、若い研究者が挑戦と失敗から学び次の仮説へ進める“場”を整えます。講座内外、学内の多様な分野や臨床の先生方と連携し、医学部全体の教育・研究基盤の発展と感染症研究の強みの強化に貢献してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしく願い申し上げます。



機能再生医学分野  
形成外科学教室  
教授

まえだ たく  
前田 拓  
(会員2)

2026年4月1日付で北海道大学大学院医学研究院 形成外科学教室 第4代教授を拝命いたしました前田拓と申します。

当教室は国内有数の歴史を有する形成外科教室であり、1965年に形成外科診療班が発足され、1978年には国立大学では全国で2番目に形成外科診療科が新設されました。初代の大浦武彦教授、2代目の杉原平樹教授、3代目の山本有平教授へとバトンが引き継がれ、名実ともに国内有数の形成外科学教室へと発展してきました。

私は大阪生まれの大阪育ちですが、

2006年に神戸大学を卒業後に歴史と伝統を有する形成外科を学ぶために、北海道大学形成外科学教室の門を叩きました。先代の山本有平名誉教授をはじめ多くの先生方のご指導のもと幅広い形成外科手術の研鑽を積んでまいりました。この教室で学んだからこそこの今があると考えております。

形成外科は、生活の質QOL(Quality of Life)の向上を目指す外科系の診療科、と定義されます。形成外科医は、手術治療を含むあらゆる手法を用いて、機能のみならず整容面（見た目）においてもより正常に、より美しく治療するという使命があります。疾患という身体の不調だけではなく、病気に苦しむ人そのものを治すという側面を有するため、がん医療の進歩に相まって治療後のQOLに関わるわれわれ形成外科医が果たす役割は非常に重要です。例えば、下顎のが

ん患者さんの再建を適切に行うことで、患者さんは術後に食事をとることができ、見た目も回復することで患者さんのQOLは大きく変わります。私はこのプロフェッショナルリズムを重視し、よりよい治療を提供することに信念を持ち歩んでまいりましたが、形成外科医ゆえのやりがいを感じています。

先代の山本先生は医師には以下の二つの使命があると考え、以下の人材育成に関するビジョンを掲げ、教室の発展にご尽力されました。

- 高度先進的医療や質の高い標準医療を提供し、地域医療においてさまざまな人に貢献すること
- 形成外科は診療科であると同時に学問でもあることを理解し、学人として基礎と臨床の両面でしっかりとした研究

を推し進めること

このような観点から当教室では、充実した研修、研究環境を維持・提供することに努めております。

最後に、当教室での研修や入局をお考えのみなさんへ。

北海道という広大な土地であり、かつ津軽海峡で内地と隔てられているという地域性がゆえに、必然的に形成外科がカバーするありとあらゆる疾患を治療対象とする必要があり、症例数、連携病院数などは全国有数の規模を有しています。北大形成外科は、皆さんを確かな技術を持つ形成外科医へと育てる土台が整っています。

教室員一同、皆様とお会いできるのを楽しみにしています。

～さあ一緒に漕ぎ出そう、形成外科という海原へ

## 令和7年度フラテ研究奨励賞報告

選考委員会委員長  
大場 雄介(72期)

令和7年度フラテ研究奨励賞には11件の応募があり、各委員が事前に応募者全員の研究業績を審査し、昨年12月22日に開催した選考委員会で、研究業績、研究計画の発展性等について多様な観

点から審査を行った結果、次の5名を受賞者として決定しました。

授賞式は本年3月25日に札幌グランドホテルで行い、浅香正博同窓会長（48期）から表彰楯及び研究奨励金が贈呈

されました。

本賞は、医学部同窓会の若手会員（応募の年度末で40歳未満）に対し、創造的研究の育成に資することを目的に創設されたものであります。平成15年度

の第1回から数えて第23回となる今回の受賞者を含めてこれまでに96名の方々の顕彰し、その多くが受賞後も輝かしい研究業績を挙げています。



北海道大学病院・  
歯科放射線科／  
放射線診断科

かめだ ひろき  
亀田 浩之  
(88期)

受賞課題：Glymphatic system の機構解明およびMRI 画像診断法の開発

この度は伝統あるフラテ研究奨励賞を賜り、誠にありがとうございます。選考委員の先生方ならびに北大医学部同窓会の諸先生方に深く御礼申し上げます。

Glymphatic systemは、CSFが脳内間質液と混合し、アミロイドβなどの老廃物を脳外へ排出するという、脳リンパ系に関する仮説です。アルツハイマー病をはじめ多くの脳疾患との関連が示唆されていますが、生体内で水動態を長期に観察する技術がなく、その実態は未解明でした。

私は、当教室で開発された新しいMRI造影剤である170標識水を、脳リンパ系を評価するCSFトレーサーとして応用する手法を考案し、この課題に取り組んでまいりました。前臨床研究では、ラット大脳皮質におけるCSFと間質液の水交換を直接観察・定量化することに成功しました。筋萎縮性側索硬化症モデルラットではglymphatic機能障害を検出し、疾患応用の可能性も示すことができました。臨床研究では、水頭症・認知症患者に170標識水を髄腔内投与し、ヒト

における髄液動態の追跡にも成功しています。今後、臨床で実用的な検査法として確立すべく、技術的課題の克服に引き続き取り組んでまいります。

本研究は、工藤興亮教授をはじめ、画像診断学教室のスタッフ・大学院生、学内外の共同研究者の皆様のご支援のもとで進めることができました。この場をお借りして心より感謝申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしく願い申し上げます。



北海道大学病院・  
循環器内科  
講師ただ あつし  
多田 篤司  
(89期)

受賞課題：運動負荷血行動態評価を用いたHFpEFにおける左房高血圧進展機序の解明

このたびはフラテ研究奨励賞という名誉ある賞を賜り、心より御礼申し上げます。本研究は、左室駆出率が保たれた心不全（HFpEF）における左房高血圧の進展機序を解明することを目的として取り組んでまいりました。HFpEFは心不全患者の約半数を占める一方、安静時には明らかな収縮能低下を示さないため診断が難しく、特に運動時にのみ左房圧が上昇する運動誘発性左房高血圧（EILAH）の自然経過は十分に解明されていませんでした。

本研究では、複数回の運動負荷右心カテーテル検査を用いてEILAH症例を縦断的に解析し、約4割が安静時左房高血圧（RELAH）へ進展することを明らかにしました。さらに、その進展には心房細動の既往や左房・肺動脈コンプライアンス低下が独立して関連することを示しました。これらの成果は、HFpEFの早期段階における病態理解と、将来的な治療介入の方向性を示す重要な知見と考えております。

本研究の背景には、米国Mayo Clinic

での心不全研究の経験があります。この度は貴重な海外留学の機会を与えて下さり、大変感謝しております。この場をお借りして、安斉教授、永井准教授をはじめ、北海道大学循環器内科学教室の先生方の温かいご指導とご支援に深く御礼申し上げます。帰国後は、その知見と技術を北海道大学に還元し、国際水準の研究を継続するとともに、後進の育成にも貢献してまいります。

北海道大学大学院  
医学研究院・  
眼科学教室み た わら みず ほ  
三田村 瑞穂  
(92期)

受賞課題：糖尿病網膜症における臨床バイオマーカーの探索

この度は、令和7年度北海道大学医学部同窓会フラテ研究奨励賞を賜り、誠に光栄に存じます。

本研究は、糖尿病網膜症（DR）における新たな臨床バイオマーカーの探索を目的としています。私は、網膜神経線維層を支える毛細血管（RPC）の血流強度を示す「RPC-flux index」に着目しました。解析の結果、本指標が従来の構造的指標よりも感度が高く、DR発症前

の段階（subclinical DR）で生じる初期の血管損傷を検出できることを明らかにしました。また、黄斑部においても神経と血管の減少の均衡（NVU）が発症前の段階で既に崩れていることを見出しました。

さらに、AI（人工知能）技術を用いて糖尿病黄斑浮腫の性状解析や視力予測を行うとともに、眼底画像から全身の血管状態を推測する「オキュロミクス」研

究にも取り組んでおります。

本受賞を糧に、眼科学の知見とAIの計算力を融合させ、眼疾患の病態解明や臨床応用、さらには眼底画像を通じた全身疾患の早期発見に貢献できるよう、一層研究に邁進する所存です。最後に、ご指導を賜りました石田晋教授をはじめ、眼科学教室の皆様にも深く感謝申し上げます。

北海道大学病院・  
整形外科い し づ は た か  
石津 帆高  
(93期)

受賞課題：骨粗鬆症の診断、治療に対する問題点への臨床的、基礎的病態解明アプローチ

このたびは名誉あるフラテ研究奨励賞にご選考いただき、誠に光栄に存じます。選考委員ならびに関係各位のご高配に、心より御礼申し上げます。本研究の着想は、日々の臨床と基礎研究を行き来する中で生じた疑問に端を発しております。骨・関節疾患に対する理解と治療は着実に進歩している一方で、なお未解明の機序や新たな治療標的が数多く残されていると感じてまいりました。これらの課題に対し、新しい視点から病態を捉え直

し、基礎から臨床へと橋渡しする研究を展開したいと考えております。

本研究では、骨代謝および骨微細構造の解析を基盤として、疾患に潜在する骨脆弱性の実態解明と新規治療戦略の創出を目指しております。ヒト組織学的解析やμCTによる形態評価、分子生物学的手法を組み合わせ、多角的に病態へ迫る計画です。これらの成果が、疾患理解の深化のみならず、将来的な治療開発や診療の質の向上に寄与することを期

待しております。

本研究は、日頃よりご指導を賜っている先生方、共同研究者、教室員の皆様の支えなくては成り立ちません。本助成を励みとして、今後も研究と診療の双方に真摯に取り組み、得られた成果を社会へ還元できるよう努めてまいります。引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

北海道大学病院・  
救急科・  
救命救急センターた か は し ま さ き  
高橋 正樹  
(93期)

受賞課題：がん原遺伝子産物PPM1Dのプロテアソーム分解機構に関する研究

この度は、伝統あるフラテ研究奨励賞を賜りましたことを、大変光栄に存じます。選考委員の先生方ならびに北大医学部同窓会の皆様にも心より御礼申し上げます。

本研究は、私が大学院在籍中に取り組んだものであり、その詳細につきましては後述の「優秀論文賞」の記事にてご紹介させていただいております。本研究の遂行にあたり、救急医学教室 和田剛志教授ならびに医化学教室 畠山鎮

次教授には、研究環境の整備および多大なご支援を賜りました。また、日々の実験および研究の推進に際しては、医化学教室 渡部昌先生に丁寧かつ確かなご指導をいただきました。この場をお借りして、改めて深甚なる感謝の意を表します。

私が所属する救急医学教室は、開設以来「免疫と凝固反応」を主軸として研究を継続してまいりました。そのような中で、今回私は従来とは異なる分野に身を

置き、分子生物学的手法を基礎から学ぶ貴重な機会をいただきました。この経験を通じて得られた知見や視点は、今後の研究活動において大きな財産になるものと考えております。

今後は、本研究で培った知識と技術を活かし、当教室のこれまでの研究領域に新たな視点を加えることで、より一層の発展に貢献できるよう努めてまいります。引き続きご指導・ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 令和8年度フラテ研究奨励賞受賞候補者の募集 !!

### 《フラテ賞》

- ・令和8年度フラテ研究奨励賞受賞候補者を次のとおり募集します。
- ・本賞は、医学部同窓会若手会員の創造的研究の育成に資することを目的に創設され、平成15年度の第1回から数えて昨年度までに97名の方々が受賞しています。
- ・第24回目の募集となる今年度も、多くの会員が奮って応募されることを願っております。

### 《授賞件数等》

- ・授賞件数は5名以内、受賞者には表彰楯及び研究奨励金20万円を贈呈します。

### 《応募資格、募集期間等》

- ・応募資格令和8年度末（令和9年3月31日）現在、40歳未満である本会会員で会費を完納している次のいずれかに該当する者とします。
  - ①北大学医学部医学科を卒業した者
  - ②前号以外の北大医学研究科または北大医学院を修了した者（応募する年度末までに修了見込みの者を含む）で、応募する年度の末日現在2年以上の同窓会員歴を有する者
  - ③第1号以外の北大医学研究院の教員で、応募する年度の末日現在2年以上の同窓会員歴を有する者
  - ④第1号以外の北大病院の教員または医員で、応募する年度の末日現在2年以上の同窓会員歴を有する者
- ・募集期間令和8年10月1日から10月31

日までの1ヵ月間です。

※申請書提出時において会費未納の方  
がおりますので、ご注意ください。

### 《応募書類等》

- ・応募書類（申請書、推薦書及び業績別刷り）は、PDFで取り纏めて提出するとともに、紙媒体の各1部を事務局へ提出すること。
- ・応募書類を封筒に入れて、「フラテ研究奨励賞応募書類在中」と朱書きし、郵送または持参すること。
  - ①郵送は必ず「簡易書留」としてください。10月31日までの消印のあるものは有効とします。
  - ②郵送した場合は直ちに、応募者氏名・郵送日を電子メールにより同窓会事務局へ連絡してください。

### ③郵送（持参）先

〒060-8638 札幌市北区北15条西7  
丁目北大医学部内

北海道大学医学部同窓会事務局  
・申請書は同窓会ホームページからダウンロードしてください。北大医学部同窓会で検索して、左上部のContents「フラテ研究奨励賞」から入ってください。

北大医学部同窓会

検索

### 《選考結果の発表、授賞式等》

- ・受賞者が決定次第、北大医学部掲示板及び同窓会ホームページで発表するとともに、応募者全員に選考結果をお知らせします。
- ・授賞式は、令和9年2月に開催する同



窓会総会で行う予定です。

- ・受賞者には、授賞式への出席及び同窓会新聞への寄稿をお願いしています。

- ・ご不明の点は、同窓会事務局にお問い合わせください。

電話：011-706-5007

E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp

## 令和7年度医学研究院等「各賞受賞者」

### 「特別賞」

特定非営利活動法人  
メディカルイメージラボ  
理事長



みやざき かずお  
宮坂 和男  
(45期)

#### 【社会的貢献名】

医療用画像管理システムおよび遠隔画像診断システムの構築

特別賞の授与、お礼申し上げます。

1980年代に入り、北大病院の再開発計画と共に、フィルム管理方法の検討が始まりました。フィルムと患者カルテの保管場所が逼迫しており、一方で画像診断法のデジタル化が進み、コンピュータサイエンス、ネットワーク技術、高密度記録媒体が急速に発展していました。院内に高速ネットワークを敷設、フィルムはCR化、画像はコンピュータ端末で観察、画

像保管は光ディスクで行う。端末の画質、画像圧縮、伝送効率について研究を進めました。その結果、1989年、全病院的な画像管理システム（PACS）が稼働しました。世界初のPACSと言われました。北大システムの特徴は、画像だけでなく全ての患者情報を包含した医療情報システムであり、完全フィルムレス、ペーパーレスになったのは2004年。故入江先生がPACSを主導して、四半世紀が経っていました。PACS稼働と同じ頃、北大病院と中標津町立病院との間で、遠隔画像診断のfeasible studyが行われてい

ます。その後、クリニックに中間的画像センターを置き、数病院と連携するシステムに発展させ、2002年、遠隔画像診断を行う北大発ベンチャー企業メディカルイメージラボを立ち上げました。親しい方々に出資頂いた事を改めて感謝致します。皆様のご支援がなければ、会社設立は覚束なかったと思います。このシステムは、広大な北海道において、連携医療機関数を問いません。北大のPACS、遠隔画像診断は、多くの方々のご尽力により生まれ、育ち、社会貢献ができるまでに成長しました。

### 「優秀研究賞」

北海道大学大学院医学研究院  
放射線科学分野 画像診断学教室  
教授



くどう てるあき  
工藤 與亮  
(71期)

#### 【研究業績名】

安定同位体MRIによる脳内水動態・代謝の可視化

このたびは、優秀研究賞という大変名誉ある賞を賜り、心より御礼申し上げます。本研究は、安定同位体を用いたMRI技術により、これまで直接的な評価が困難であった脳内の水動態や代謝を非侵襲的に可視化することを目的として進めてきたものです。従来の画像診断では捉えにくかった脳実質・血管・脳脊髄液を含む水の循環やクリアランス機構を、

画像として評価する新たな枠組みの構築を目指してきました。

基礎的な撮像・解析技術の開発から動物実験、さらにはヒトを対象とした臨床研究へと段階的に展開してきましたが、決して一人で成し得た成果ではありません。研究の過程では、技術的課題や制度面での壁に直面することも多くありましたが、教室のスタッフ、大学院生、学内外の共同研究者、企業関係者の多大な支援により、ここまで継続することができました。本賞は、こうしたチーム全体の

努力に対して頂いたものと受け止めています。

脳内水動態やクリアランス機構の解明は、神経変性疾患や加齢に関連する病態理解、さらには予防医療や早期診断にもつながる可能性を秘めています。本受賞を励みとして、今後も基礎と臨床をつなぐ画像診断研究を推進し、次世代の研究者育成と医学の発展、社会への還元に貢献していきたいと考えています。

### 「優秀論文賞」

北海道大学病院  
整形外科  
講師



やまだ かずひさ  
山田 勝久  
(81期)

#### 【論文題目】

Acellular, bioresorbable, ultra-purified alginate gel implantation for intervertebral disc herniation: Phase 1/2, open-label, non-randomized clinical trials.

(雑誌名: Nature Communications)

この度は、栄誉ある優秀論文賞を賜り、誠に光栄に存じます。本研究の成果を高く評価していただいた審査委員の皆様、ならびに関係各位に心より感謝申し上げます。

本研究は、国内に約2万人の患者がいるとされる腰椎椎間板ヘルニアに対する革新的な治療法の開発を目的としたもの

です。現在標準的に行われているヘルニア摘出手術では、摘出後に生じる椎間板内部の空洞により組織修復が障害され、疼痛の残存や組織変性の進行、再手術のリスクを伴うことが課題となっています。

これに対し我々は、組織再生能を有するアルギン酸を基盤としたソフトバイオマテリアルを用いた臨床試験を実施いたしました。40例の腰椎椎間板ヘルニア手術症例を対象とし、ヘルニア切除後に椎間板内への高純度アルギン酸ゲルの無細胞埋植を実施した結果、全例で安全に施行可能であり、ゲルに関連した有害事象も認められませんでした。また、従

来法と比較して術後早期のQOLが有意に改善したほか、術後2年次のMRIでは椎間板組織再生を示唆する良好な経過を確認することができました。本研究結果を基盤として、検証的臨床試験の実施を予定しております。

今回の受賞にあたり、当科の岩崎倫政教授、直接ご指導を賜りました須藤英毅特任教授、共著の先生方、共同研究機関である我汝会にわ病院の皆様、そして臨床研究開発センターをはじめとするすべての関係各位に深く感謝申し上げます。今後も脊椎外科領域の発展とより多くの患者様のQOL向上に寄与できるよう、一層研究に邁進する所存です。

### 「優秀論文賞」

北海道大学大学院医学研究院  
皮膚科学教室  
助教



いとう たかまさ  
伊東 孝政  
(86期)

#### 【論文題目】

Eosinophil derived neurotoxin and eosinophil cationic protein are key molecules for blister formation in pemphigoid

(雑誌名: Journal of Allergy and Clinical Immunology)

この度は優秀論文賞を賜り、大変光栄に存じます。今回で3回目の受賞となり、前回受賞時に、氏家英之教授（当時講師）との研究を形にしたいと申し上げておりましたので、有言実行でき安堵

しております。これもひとえに、ご指導を賜りました氏家教授のお力添えの賜物であり、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、本研究では筆頭著者および責任著者を務めることができ、個人的にも大変印象深いものとなりました。

本研究では、水疱性類天疱瘡が自己抗体により皮膚構成タンパクが攻撃されることで発症する自己免疫疾患であることを背景に、自己抗体のみでは水疱が形成されず、好酸球由来のECPおよびEDNが水疱形成に関与することを、動

物モデルおよび患者検体を用いて明らかにしました。これにより、ECP・EDNを標的とした新規治療法の可能性が示唆されました。

また、留学中に取り組んだ2型自然リンパ球の研究もすでに論文として公表されており、来年4回目の受賞につながる成果として評価いただけるよう、引き続き努力してまいります。



## 「優秀論文賞」

北海道大学病院  
循環器内科  
講師



ただ あつし  
多田 篤司  
(89期)

## 【論文題目】

Pulmonary arterial wedge  
pressure exceeding left atrial  
pressure: clinical implications  
(雑誌名: European Heart Journal)

このたび優秀論文賞という荣誉ある賞を賜り、誠に光栄に存じます。本研究は、心不全や肺高血圧の診療において長年標準の指標として用いられてきた肺動脈楔入圧 (PAWP) と左房圧 (LAP) の関係に改めて着目し、その乖離の頻度、病態生理学的背景、ならびに予後との関連を体系的に検討したものです。

従来、PAWPはLAPを反映する指標と理解されてきましたが、臨床の現場では両者が一致しない症例が一定数存在

していました。本研究では、経中隔アプローチによりLAPを直接測定した675例という大規模コホートを対象に解析を行い、約半数でPAWPがLAPを上回る現象を認めました。これらの症例では肺動脈圧上昇や肺動脈コンプライアンス低下を伴い、肺血管系の病態進展が関与していることが示唆されました。

さらに長期予後解析により、PAWPがLAPを上回る患者群では心不全入院および死亡リスクが有意に高いことを明らかにしました。すなわち、PAWPの上昇は単なる左房圧の代替指標ではなく、肺血管病変を反映する独立した予後マーカーとなり得ることを示した点に本研究の意義があります。本成果は、侵襲的

血行動態評価を用いた精緻な病態解析に基づくものであり、心不全診療の解釈に新たな視点を提示するものと考えております。

本研究は米国Mayo Clinicでの留学中における研究の一環として実施されました。この度は貴重な海外留学の機会を与えて下さった、安齋教授、永井准教授をはじめ、北海道大学循環器内科学教室の先生方に厚く御礼申し上げます。帰国後は、これらの経験と研究基盤を北海道大学に還元し、北大から世界へ発信できる質の高い研究を継続してまいります。

## 「優秀論文賞」

北海道大学大学院医学研究院  
皮膚科学教室  
客員研究員



まい しょうこ  
真井 翔子  
(91期)

## 【論文題目】

Identification of distinct epitopes  
in dipeptidyl peptidase-4  
inhibitor-associated bullous  
pemphigoid  
(雑誌名: Science Advances)

この度は令和7年度優秀論文賞に選出いただき、大変光栄に存じます。選考委員の先生方、同窓会の諸先生方ならびに事務局の皆様へ厚く御礼申し上げます。

本研究は、私が北海道大学医学院博士課程在学中から取り組んできたテーマです。水疱性類天疱瘡は、皮膚の基底

膜部に存在する17型コラーゲン等に対する自己抗体により水疱を形成する自己免疫性水疱症です。近年、DPP-4阻害薬を服用している患者で水疱性類天疱瘡の発症増加が知られるようになりましたが、これらの患者において、既存の保険適応検査では診断上重要な自己抗体が検出されないことが多く、診断が困難であるという問題がありました。そこで、本研究では自己抗体の標的である17型コラーゲンの一部を、構造が類似する13型コラーゲンに組み込んだドメインスワップタンパクを作成し、それを用いたELISAを開発しました。この方法により、本疾

患に特徴的な自己抗体を高感度かつ高特異度で検出できることを示しました。

本成果により、これまで診断が困難であった患者の早期診断が可能となり、より適切な治療や予防的モニタリングにつながる事が期待されます。

最後に、本研究の機会を与えていただきました故清水宏名誉教授、ならびに氏家英之教授、直接のご指導を賜りました西江渉先生をはじめ、ご指導、ご協力いただきましたスタッフの皆様へ心より御礼申し上げます。今回の受賞を励みに、今後も一層研鑽を積んでいく所存です。

## 「優秀論文賞」

北海道大学病院  
救急科  
医員



たかし まさき  
高橋 正樹  
(93期)

## 【論文題目】

PPM1D is directly degraded by  
proteasomes in a ubiquitination-  
independent manner through its  
carboxyl-terminal region.  
(雑誌名: Journal of Biomedical  
Science)

この度は、荣誉ある優秀論文賞にご選考いただきましたこと、大変光栄に存じます。本研究は、私が大学院在籍中に医化学教室に所属し、取り組んだものです。

がん原遺伝子産物であるPPM1Dは、p53によって発現が誘導され、p53をネガティブに制御するタンパク質ですが、種々の悪性腫瘍において過剰発現や機能獲得型変異が報告されています。細

胞内のPPM1Dはプロテアソームによる分解を受けますが、その詳細な制御機構については明らかになっていませんでした。本研究では、プロテアソームによるPPM1D分解に複数の経路が存在すること、特にPPM1Dのカルボキシル末端を標的としたユビキチン化非依存的な分解経路が存在することを新たに明らかにしました。さらに、プロテアソーム構成因子であるPSMD14およびPSME3がPPM1D分解を促進する役割を担うことを見出しました。これらの分解制御機構の解明は、腫瘍の悪性化に関与するPPM1Dの分解を誘導する分子標的治療の開発に寄与する可能性があると考えられます。

また、プロテアソーム阻害剤とPPM1D阻害剤の併用により、腫瘍細胞

において相乗的に細胞死が誘導されることを示しました。さらに、プロテアソーム阻害剤に耐性を有する腫瘍細胞においても、PPM1D阻害剤との併用が有効であることを見出しました。プロテアソーム阻害剤は、本邦では多発性骨髄腫などの悪性腫瘍に対して使用されていますが、本研究の知見は、その適応拡大や薬剤耐性克服に資する可能性を示唆するものと考えています。

今回の受賞を励みに、今後も基礎研究と臨床研究を継続し、医学の発展に貢献できるよう邁進してまいります。改めて本研究をサポートいただきました皆様へ心より感謝を申し上げます。

## 新世紀の医学に向けて (54)

## 北海道大学病院組織バンクの始動

臓器移植医療部&  
組織移植医療部  
部長

しまむら つよし  
嶋村 剛 (63期)



移植医療は大きく「臓器移植」「組織移植」「細胞移植」に分けられます。わが国の臓器移植は心停止後個体や生体ドナーからの臓器提供を中心に発展してきましたが、脳死下の臓器提供を容認する「臓器移植法」(1997年制定・2010年改訂)により新たな時代を迎えました。2025年には脳死下提供146例から計660例の移植手術が実施されています。対象臓器は心臓、肺、肝臓、腎臓、脾臓、小腸であり、北大病院はこれら全臓器の実施施設認定を受けています。私自身、1991年の北海道初の生体肝移植を皮切りに、1997年秋の肝移植プログラ

ム再開以降、次世代にバトンタッチするまでの26年余で肝移植344例(生体275・脳死69)と脾臓移植10例(すべて脳死)の臨床に従事しました。臓器移植の発展を身をもって経験する一方で、解決すべき課題にも直面しました。たとえば、臓器提供の現場で「組織提供」の同意が得られても、それに対応するシステムがなく意向に応えられなかったことがあります。また、血管グラフトが確保できず生体肝移植手術を断念したことも数多くありました。こうした経験を重ねるなかで、組織移植のためのグラフトを保管し、必要な患者さんに確実につなげる「基盤」

の重要性を痛感しました。

このような背景から2025年2月に北大病院の中央診療部門として組織移植医療部(組織バンク)を新設していただきました。「組織移植」には皮膚、心臓弁・血管、骨・靱帯、脾臓(脾臓のランゲルハンス島)、羊膜があり、いずれも保険収載されています。しかし、日本とくに北海道では組織移植に対する認知度が十分とはいえず、治療の選択肢となっていない現状があります。組織グラフトが手許にないので当然です。一方で、自施設での使用を目的としたプライベートバンクを運用する施設もあります。

臓器移植は臓器移植法という法律に則り厳格に実施されていますが、組織移植には準拠すべき法律がないことも背景にあります。こうした状況を踏まえ、日本組織移植学会が安全性や透明性を担保すべく、2002年に「組織移植に関するガイドライン」を作成しました。国内には現在「同学会の認定を受けた組織バンク」が19ありますが、取り扱える組織はバンクにより異なりかつ限定されています。北海道には認定施設がない状況が長く続きましたので、北大病院組織バンクでは複数組織を扱えるよう計画しています。まず2026年3月に脾臓バンク認定を取得しまし



た。さらに骨・靱帯、心臓弁・血管、皮膚の順に順次認定を取得すべく準備を進めています。採取・保存した組織を他施設へも供給できる「カテゴリー1」の認定取得が前提です。これにより脳死下、心停止後の組織提供のみならず、手術で摘出された骨（生体骨）を保存し、道内はもとより国内で希望のある施設へ透明性をもって供出できる体制が整います。臓器移植につづき、北大病院が北海道における組織移植医療の拠点としての役割を担うことになります。センター長、メディカルディレクター、日本組織移植学会認定コーディネーターが中心となり業務を行います。組織採取について

は関連診療科のご協力を頂きながら、病院全体で取り組む体制となります。必要な機材の搬入・施設工事は2026年末までに完了する予定です。

今年、ミラノ・コルティナ冬季オリンピックが開催されましたが、2008年北京オリンピックの女子ソフトボールを覚えていらっしゃるでしょうか？オーストラリアに勝てば決勝進出、負ければ銅メダル確定という決勝トーナメント3位決定戦。延長12回に及んだ闘いは遊撃手・西山麗選手（サヨナラ安打で勝利しました。続く決勝戦でも勝利し金メダルを獲得しましたが、西山選手は14歳の時に組織移植（心臓弁移植）を受けたレシピエントでした。手術

は渡米して行われ、移植された心臓弁は14歳で交通事故死した女の子からの提供だったそうです。2008年にWHOから「イスタンブール宣言」が発出され、海外渡航移植は原則として禁止されました。移植医療の基本は自給自足（self-sufficiency）です。臓器だけでなく組織移植も自国や地域で完結できる体制を整えることが重要だと考えています。

iPS細胞を使った2種類の再生医療等製品が承認されました。2013年の再生医療推進法の下、薬機法に基づく再生医療等製品や再生医療等安全確保法に準拠した臨床研究が精力的に進められています。組織バンクが扱う脳死ドナーか

らの膵島移植も後者の一つとして承認されたものです。組織移植は長い歴史をもつ医療技術ですが、再生医療とのクロスオーバーにより新たな価値を生み出す分野でもあります。

北大病院組織バンクが十分な提供・保存数を確保し安定して機能するには、なお3年ほど必要と考えています。臓器移植同様、組織移植に対する理解や倫理感の醸成には時間が必要なためです。同窓の皆様のご理解とご支援を賜れますようお願い申し上げます。

（北海道大学フロンティア基金「組織バンク」寄付[<https://www.hokudai.ac.jp/fund/Regist=7&g=361>]

## エルムの仲間たちへ(14)「地域医療最前線(道東・釧路)」

市立釧路総合病院 院長 もりた けん 森田 研(65期)



地域医療構想が議論される中で、地域医療支援病院の管理者の認定資格として「最低1年間の医師少数区域での勤務歴を義務化」という策が講じられている。地方勤務を希望する医師数によっては「都市部の勤務歴が無い医師には一定の経験年数に従って過疎地域の病院管理者を義務化」した方が良いような気もするが、医局制度単独でそれを維持することも困難である。地方の基幹病院の多くは特定の民間医療団体の独自派遣を除いて医師派遣を大学教室に頼らざるを得ない。また総合診療や緩和医療、家庭医療学などの領域では大学医局のような持続可能性の高い医療人材の教育・派遣が課題である。一方で物価高やインフラ費用の増大にも関わらず大学教授の報酬が低いままであることに危機感を覚える。自分たちが巣立った大学医局が組織運営のための経費不足に喘ぎ、教育・研究・臨床・医師派遣を行う大学医師の報酬が低いままでは、北海道の地域医療の根幹が揺らぐ。

当院が三次地域医療を担う根室・釧路・中標津医療圏は、これら3医療圏の保健所長（石井安彦技監）によると、北海道の6つの三次医療圏の中で、どの隣接する医療圏にも医育大学が存在しないという唯一の特徴がある。医師派遣や患者紹介で大学病院と最大の距離を要する三次医療圏である。このような地政学的環境において古くは函館医学所を中心とする西洋医学士の医師派遣を海路

により受けていた江戸・明治初期の「根室官立病院釧路出張所病院」時代から、医師不足は常に地域医療の大問題であった。大正・昭和にかけての釧路医療史は、辻見啓治著の「釧路地方医学史」<sup>1)</sup>、近代史については宮城島拓人著「Dr.ミヤタクの研修医養成ギブス」<sup>2)</sup>に、主観を排した客観的著述がなされており、人員不足の中、自然淘汰的に地域医療を維持してきた、と言うのが正直なところである。平成3(1991)年に初めて市立釧路総合病院に勤務以来、4回目の赴任で釧路に居を構えた流れ者から見ても、競合する専門診療科が少ない中、他院と常に協力して総合的な診療を行う状況が続いている。大都市圏のように類似した専門診療科が複数存在し、医療ニーズが競合する状況とは異なり、各専門領域を維持できるかどうかの瀬戸際で地域医療を保っている。2025年の根室・釧路医療圏を合わせた医療圏域内自給率（流出・受療動向）は入院97%・外来98.5%を維持しているものの、釧路市の人口が40年ぶりに15万人を下回った現在、高度先進医療・希少疾患治療は北海道全体で集約化を余儀なくされていくと考えられる。

コロナ禍初期に試験運用が開始された札幌医大病院のECMOカーは2024年に臨床運用が開始され、自衛隊・防災ヘリで搬送が可能な高度医療は大学病院に依頼している。臓器移植・遺伝子ゲノム医療や高額医療機器を要する放射線治

療等は道央圏に集約・依存がさらに加速するものと予想される。緊急症例では、血小板輸血が間に合わず、いまだに新鮮血輸血のために登録職員が年1-2回招集されている。今年度も供血者の表彰を行った。

道東地域の医療分担は地域の研修医教育に象徴的に表れている。4病院に配属される臨床研修医は、病院を越えた診療科研修を行うために所属施設にこだわらず研修ローテーションを選択している。自治体病院以外に、診療所やクリニックが存在しない地域も多く、地域研修の担い手として研修医は実働部隊として働き学んでいる。南須原病院長が言及されているように、北海道の地域医療の将来を担う人材の育成のための、大学や出自を越えた連携・教育が、これも自然淘汰的・必然的に行われている。

今回の診療報酬改定では「人口の少ない地域での医療提供体制」が配慮されているものの釧路は該当せず、「都会でもなく過疎でもない地域医療」を維持せねばならない。都会型の急性期病院では誤嚥性肺炎や尿路感染症などの高齢者救急を他院に依頼できるかも知れないが、釧路ではその受け皿・余裕が他院にあるのか?に思いを馳せながら現場を動かす能力が若手医師にも求められる。全国的な外科系医師の人員不足・負担増加に加え、釧路では小児医療（小児保健）・周産期・精神医療の診療所機能がひっ迫している。歴史的に病院勤務の

医師に比べて診療所・開業医の数が少ないという傾向があり、小児科開業医の高齢化に伴い、函館市のように小児保健・一次救急のセンター化を迫られるのではないかと予想する。

当院は災害拠点病院として能登半島地震ではDMAT・DPATの派遣を行った。千島海溝地震では道東が被災地となる可能性が高く、道内の災害時に他地域へDMAT派遣を行う際、被災地での患者搬送を行う装備の充実が資金難の中で最大の課題である。災害拠点病院である当院の病院救急車は、平時は患者転院搬送等を行う一方で、戦時は瓦礫の山となる被災地で最低限の道路啓開直後から緊急走行での被災者移送能力が問われる。地元消防本部の厚意により2021年に走行距離19.3kmで無償譲渡を受けた2003年製の車両を、病院救急車として使用している。病院単独で整備を行う限界を越える全道災害対策の課題であることを最後に付記する。（2026年4月1日、走行距離292,533kmに達し、釧路市消防本部より無償譲渡された同73,383kmの車両に更新された）

- 1) 辻見啓治. 釧路地方医学史 釧路叢書第八巻 中西写真製版印刷株式会社 1967
- 2) 宮城島拓人. Dr.ミヤタクの研修医養成ギブス 金芳堂 2021

## 常勝

医学科5年 かとう みう 加藤 水生(104期)



こんにちは。北海道大学医学部スキー部五年の加藤水生と申します。クロスカントリースキー部門に所属しております。現在スキー部は医学部医学科男子32名、女子11名の計43名で活動しております。今回は今のスキー部について書かせていただこうと思います。私が入部したのはコロナ禍が明けようとしていた時期でした。多くの部活動が制限される中、

スキー部は感染対策をしっかり行いつつ活動的だったのを覚えています。私は大学までは競技スキー未経験の初心者でしたが、スキー部の雰囲気と競技への姿勢が気に入って入部を決めました。

スキー部の活動をお話する際、「夏の間は何をしているのか」とよく尋ねられますが、夏でもスキーでの動きを練習できるローラースキーやインラインスケート

といった道具で練習します。また、ランニングや筋トレなどもとても重要です。スキーの面白いところはスキーの技術だけでなく体力や筋力など様々な要素がかかわってくることです。だからこそ地道な夏練が不可欠です。オフシーズンの練習にも手を抜かず自主練にも励むことで、未経験者でも確実に成長できます。

そしていよいよシーズンになると部員全員がスキーに打ち込みます。OB・OGの先生方から受け継ぐ、とことんスキーに打ち込む伝統は今もしっかりと引き継がれています。北海道の地の利を活かし11月から雪上練習を開始します。そして

冬休みは文字通り雪山にこもりスキーをします。春休みに入ってから必要最低限の休みを挟むだけで、毎日のようにゲレンデへ向かいます。下級生の頃は練習についていくだけで大変でしたが、だんだんとこうした生活にも慣れてきました。私が三年生の時は春休みが長かったことや、上級生になり体力もついたことなどで、本当に毎日のようにスキーに没頭しました。これほどまでに一つのことに全力で向き合い、打ち込める環境は、人生において多くはないと思います。このような環境にいられることはとても貴重なことだと日々感じます。



ここまで書くとは厳しい練習ばかりのように思われるかもしれませんが、普段のスキー部はまた少し違います。夏練では体育館を借りてドッジボールやバスケットボールをしたり、夏休みにはBBQをする夏合宿をしたり、楽しいイベントも多いです。厳しい合宿と一緒に乗り越え、遊ぶときはしっかり楽しむという雰囲気は今の私たちにもしっかりと受け継がれています。

こうした日々の集大成が東日本医科学学生総合体育大会（以下東医体）です。昔は男子部員が多い時期が続きましたが、OB・OGの先輩方が女子部員の勧誘を続けてくださったおかげで、現在は男女ともに東医体で活躍しています。私が二年生の時に男女ともに総合優勝し、続けて三年生の時にも総合優勝したことで男女ともに二連覇を果たしました。特に三年生の時はより主体的に部活に取り組んだため、個人戦でも初めて優勝することができ思い出に残っています。ここまで部活動に打ち込める環境とその伝統が

優勝につながったのだと思います。

四年生へと進級し医学の勉強や実習も忙しくなりましたが、部内では上級生として全体をまとめる立場となりました。そして迎えた今年の東医体。旭川医科大学や札幌医科大学、東北大学の勢もあり厳しい戦いが予想されました。しかし、長年スキーに打ち込んできた上級生がしっかりと結果を残し、その背中を追う下級生も予想を上回る滑りで得点を重ねてくれました。結果、男子は総合優勝で三連覇、女子は総合準優勝となりました。特に心に残っているのは、最終日に行われたクロスカントリースキーのリレーです。次々に順位が入れ替わる接戦の中、下級生の躍進と上級生の底力を見せた力走で、男女ともにリレー優勝という有終の美を飾ることができました。本当に感動しました。北大スキー部の良さは、初心者が実力を伸ばす仕組みが受け継がれ、上級生も下級生も一丸となって戦えるところです。今回の東医体でもその良さが発揮されたと思います。

常勝北大と言われることがありますが、部員個々の努力と、OB・OGの先生方の温かいご支援、そして紡いでくださった伝統のもとに成り立っていると思います。先生方の素晴らしい成績は私たちを励ましてくださります。私たちの結果もそこに繋げ、常勝北大を引き継いでいきたいです。女子は今回惜しくも準優勝で

したので、五年生となる来年度はチームを総合優勝へ導きたいと思います。そして、これからもこのプレッシャーを楽しみながら仲間と共にスキーに励み、伝統を次の世代へ繋いでいきたいです。今後とも応援どうぞよろしくお願いいたします。

最後までご拝読いただき、誠にありがとうございました。



## 北海道大学医学部同窓会理事会・評議員会議事録

〔日 時〕令和8年3月17日（火）

18:30～19:25

〔場 所〕医学部百年記念館大会議室

〔出席者〕理事10名

浅香会長、佐久間副会長、笠原副会長、大西会計担当理事、矢部編集担当理事、西澤理事、畠山理事、田中理事、大場理事、近理事

評議員

50名（出席者9名、委任状提出41名）

政氏議長（65期）、橋本副議長（76期）、鈴木（39期）、阿部（40期）、岸（45期）、櫻木（52期）、小柳（57期）、真部（61期）、松島（80期）

〔同席者〕加畑監事、山崎監事

〔資 料〕

- 1 会則
- 2-1. 2 次期役員候補者名簿、選考経緯
- 3 令和8年度会計収支予算書（案）
- 4-1. 2 Web閲覧アンケート集計表
- 5-1. 2 評議員、予備評議員名簿
- 6 令和7年度会計収支中間報告書
- 7 令和7年度庶務、事業報告書
- 8 令和7年度編集報告書

会議に先立ち、政氏議長から本日の理事会・評議員会は、同一議題・報告であり、開催会場も同一の大会議室行われることから、合同で開催することが提案され、これが了承された。

引き続き、浅香会長から会議に際して挨拶があった。

政氏議長から、理事13名のうち過半数の出席があり、会則第18条の規定に基づき、理事会は有効に成立している旨報告があった。

次いで政氏議長から、評議員71名のうち委任状提出者を含めて過半数の出席があり、会則第24条の規定に基づき、評議員会は有効に成立している旨報告があった。

〔議 事〕

〔協議事項〕

1. 次期評議員会議長、副議長の選出について

政氏議長から、評議員会議長及び副議長は評議員の任期2年ごとに選出しており、本年度末で任期が満了となるため、本日、次期議長、副議長を選出する旨説明があった。

次いで政氏議長から、立候補または推薦を募る旨発言があり、浅香会長から次期議長に政氏伸夫評議員（65期）、副議長に橋本直樹評議員（76期）が推薦された。

次いで政氏議長から、推薦のあった両名を次期議長、副議長とすることについて諮られ、審議の結果、満場一致で了承された。

次いで政氏伸夫氏、橋本直樹氏から就任の挨拶があった。

2. 次期役員（理事、監事）の選出について

政氏議長から、現在の役員は本年度末で2年の任期が満了となるため、昨年11月の評議員会で次期役員候補者選考委員会が設置され、候補者の選考が進められた旨説明があった。

次いで松島同委員会委員から資料2に基づき、候補者選考の経緯、選考結果について報告があった。

次いで政氏議長から、推薦のあった候補者を次期役員とすることについて諮られ、審議の結果、満場一致で了承された。

次いで政氏議長から、会則第8条第2項に、会長は理事の互選による。第3項に、副会長は理事の中から会長が委嘱すると規定されているので、次期理事による会議を開催して新会長を選出するので、その間、理事会・評議員会を一時中断する旨発言があった。

（理事会・評議員会一時中断）

政氏議長から理事会・評議員会を再開する旨発言の後、次期理事の浅香正博氏から、新会長には同人が選出されたこと、新副会長は会則に則り笠原正典氏及び矢部一郎氏を指名したこと、会計担当理事には大西俊介氏を、編集担当理事には副会長の矢部一郎氏を、また、これまで不在であった総務担当理事には大場雄介氏を委嘱する旨報告があった。

次いで浅香正博氏、笠原正典氏及び矢部一郎氏から就任の挨拶があった。

政氏議長から、協議事項3「令和8年度会計収支予算（案）について」に先立ち、報告事項2「令和7年度会計収支中間報告について」を行う旨説明があった。

〔報告事項〕

2. 令和7年度会計収支中間報告について

大西会計担当理事から資料6に基づき、本年2月末日現在の令和7年度会計収支状況について報告があった。

〔協議事項〕

3. 令和8年度会計収支予算（案）について

大西会計担当理事から資料3に基づき、令和8年度会計予算（案）について説明の後、審議の結果、これが了承された。

4. 同窓会新聞等のWeb化について

大西会計担当理事から資料4に基づき、昨年11月に開催された理事会・評議員会で同窓会新聞等のWeb化の導入が認められ、紙媒体での提供についてアンケート調査結果を行ったところ、回答率が低かったことから再度アンケート調査を実施する旨説明後、審議の結果、これが了承された。

5. その他

特になし

〔報告事項〕

1. 次期評議員、予備評議員の一部交代について

議長から資料5-1に基づき、令和6、7年度の各期毎の評議員及び予備評議員について報告があり、ついで、資料5-2に基づき、令和8、9年度の評議員及び予備評議員について報告があった。

3. 令和7年度庶務、事業報告について

笠原副会長から資料7に基づき、総会及び諸会議の開催状況等について報告があった。

4. 令和7年度編集報告について

矢部編集担当理事から資料8に基づき、同窓会新聞及び同窓会誌の発行状況等について報告があった。

5. その他

特になし  
議事終了後、佐久間一郎副会長から退任に際しての挨拶があった。  
政氏議長から、評議員に対し謝辞が述べられた。

※協議事項1～4は政氏伸夫評議員会議長が、報告事項1～4は橋本直樹副議長が議事進行を務めた。

以上





新役員・評議員・予備評議員名簿

| 理事・監事    |      |       |                                  |  |
|----------|------|-------|----------------------------------|--|
| 役 職      | 卒業期  | 氏 名   | 勤 務 先                            |  |
| 会 長      | 第48期 | 浅香 正博 | カレス記念病院 院長                       |  |
| 副会長      | 第56期 | 笠原 正典 | 北海道大学 名誉教授                       |  |
|          | 第67期 | 矢部 一郎 | 北大大学院医学研究院 神経内科学教室 教授            |  |
| 総務理事     | 第72期 | 大場 雄介 | 北大大学院医学研究院 細胞生理学教室 教授            |  |
| 会計理事     | 第70期 | 大西 俊介 | 北大大学院薬学研究院 分子細胞薬学研究室 教授          |  |
| 編集理事(兼務) | 第67期 | 矢部 一郎 | 北大大学院医学研究院 神経内科学教室 教授            |  |
| 理 事      | 第48期 | 松家 治道 | 北海道医師会 会長                        |  |
|          | 第56期 | 西澤 典子 | 医療法人萌佑会介護老人保健施設 ゆあみーる            |  |
|          | 第57期 | 畠山 昌則 | 公益財団法人微生物化学研究会・微生物化学研究所 特任部長     |  |
|          | 第59期 | 小笠原和宏 | 釧路労災病院 副院長 外科部長                  |  |
|          | 第60期 | 西川 秀司 | 市立札幌病院 管理者                       |  |
|          | 第65期 | 本間 明宏 | 北大大学院医学研究院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 教授     |  |
|          | 第66期 | 田中 伸哉 | 北大大学院医学研究院長・医学部長 腫瘍病理学教室 教授      |  |
|          | 第74期 | 近 祐次郎 | さっぽろ内科・リウマチ膠原病クリニック 院長           |  |
| 監 事      | 第72期 | 加畑 馨  | 北大病院 医療ヘルスサイエンス研究開発機構再生医療センター 講師 |  |
|          | 第78期 | 山崎美和子 | 北大大学院医学研究院 解剖発生学教室 教授            |  |

| 編集委員名簿 |      |       |                                |  |
|--------|------|-------|--------------------------------|--|
| 役 職    | 卒業期  | 氏 名   | 勤 務 先                          |  |
| 編集委員長  | 第67期 | 矢部 一郎 | 北大大学院医学研究院 神経病態学分野 神経内科学教室     |  |
| 編集委員   | 第55期 | 山科 賢児 | やましな内科クリニック                    |  |
|        | 第64期 | 南須原康行 | 北海道大病院 患者安全推進部                 |  |
|        | 第66期 | 蝦名 康彦 | 北大大学院 保健科学研究院 創成看護学分野          |  |
|        | 第71期 | 田中 敏  | 苫小牧市立病院 病理診断科                  |  |
|        | 第78期 | 氏家 英之 | 北大大学院医学研究院 感覚器病学分野 皮膚科学教室      |  |
|        | 第80期 | 木佐 健悟 | JA北海道厚生連 ニセコ羊蹄広域 俱知安厚生病院 総合診療科 |  |
|        | 第80期 | 松島 理明 | 北海道大学 保健センター                   |  |
|        | 第81期 | 的場光太郎 | 北大大学院医学研究院 社会医学分野 法医学教室        |  |
|        | 第83期 | 白井 慎一 | 北大大学院医学研究院 神経病態学分野 神経内科学教室     |  |
|        | 第40期 | 長瀬 清  | 公益財団法人 北海道対がん協会                |  |
| 順 問    | 第55期 | 佐久間一郎 | ソリス札幌クリニック                     |  |
|        | 第60期 | 當瀬 規嗣 | 北海道文教大学 人間科学部健康栄養学科            |  |
|        | 第66期 | 田中 伸哉 | 北大大学院医学研究院 病理学分野 腫瘍病理学教室       |  |

評議員・予備評議員名簿

| 卒業期  | 評議員   | 予備評議員 | 卒業期  | 評議員   | 予備評議員 | 卒業期  | 評議員   | 予備評議員 | 卒業期  | 評議員   | 予備評議員 | 卒業期  | 評議員   | 予備評議員 | 卒業期   | 評議員   | 予備評議員 |
|------|-------|-------|------|-------|-------|------|-------|-------|------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 第27期 | 佐藤 正昭 | —     | 第44期 | 中村仁志夫 | 石橋 輝雄 | 第57期 | 小柳 泉  | 秋田 弘俊 | 第70期 | 相澤 寛志 | 上田 佳代 | 第83期 | 清水 智弘 | 井平 圭  | 第96期  | 篠 裕輝  | 黒澤 卓  |
| 第28期 | 小林 博  | —     | 第45期 | 岸 不盡彌 | —     | 第58期 | 小林 一  | 大瀧 敏裕 | 第71期 | 山田 崇弘 | 安部 崇重 | 第84期 | 庄司 哲明 | 横山 絵美 | 第97期  | 山下たんば | 岸岡 歩  |
| 第30期 | —     | —     | 第46期 | 工藤 俊彦 | 大宮司 信 | 第59期 | 松野 吉宏 | 鈴木 康夫 | 第72期 | 大山 尚貢 | 泉山 康  | 第85期 | 河野 修  | 藤本 隆憲 | 第98期  | 野田 暉翔 | —     |
| 第32期 | 澤田 孚  | 久保 良彦 | 第47期 | 本間 研一 | 福島 直樹 | 第60期 | 笹本 洋一 | 西部 学  | 第73期 | 西田竜太郎 | 野呂 紀子 | 第86期 | 西本あか奈 | 松宮 寛子 | 第99期  | 荒川 泰瑠 | 寺島 祐樹 |
| 第34期 | 多米 豊  | —     | 第48期 | 松野 一彦 | 寺島 嘉昭 | 第61期 | 真部 淳  | 後藤田裕子 | 第74期 | 北明 大洲 | 小原 雅人 | 第87期 | 荒木 大  | 川島 圭介 | 第100期 | —     | —     |
| 第35期 | 小池 章之 | 齋藤 和雄 | 第49期 | 川口 秀明 | 安達 一幸 | 第62期 | 川浪 貢  | —     | 第75期 | 三山 博史 | 夏井坂光輝 | 第88期 | 福田 直樹 | 青沼 彩音 | 第101期 | 若山 嘉秀 | —     |
| 第37期 | 後藤 康之 | 今野 則道 | 第50期 | 小林 清一 | 福田 公孝 | 第63期 | 加藤千恵次 | 石川 岳彦 | 第76期 | 橋本 直樹 | 加納 崇裕 | 第89期 | 脇田 雅大 | 水門 由佳 | 第102期 | 小西 響稀 | 駒野 仁美 |
| 第38期 | 齋藤 昇  | —     | 第51期 | 永島 哲郎 | 武蔵 学  | 第64期 | 加藤 正仁 | 小川 秀彰 | 第77期 | 三田村 卓 | 武重宏呂修 | 第90期 | 押野 智博 | 今本 鉄平 | 専門3期  | 金川 宗一 | —     |
| 第39期 | 鈴木 重統 | 鎌田 寛  | 第52期 | 櫻木 範明 | 瀬谷 司  | 第65期 | 政氏 伸夫 | 森田 研  | 第78期 | 中澤 広  | 平田 健司 | 第91期 | 高森信乃介 | 工藤 彰彦 | 会員2   | 渡邊 雅彦 | —     |
| 第40期 | 阿部 和厚 | 細川眞澄男 | 第53期 | 松下 卓郎 | 大生 定義 | 第66期 | 尾島 裕和 | 鈴木 清護 | 第79期 | 庄野 雄介 | 齋藤 晶理 | 第92期 | 半田 悠  | 大浦 峻介 |       |       |       |
| 第41期 | 富樫 武弘 | 江端 英隆 | 第54期 | 小林 正伸 | 野平久仁彦 | 第67期 | 増谷 学  | 竹田 剛  | 第80期 | 木佐 健悟 | 松島 理明 | 第93期 | 鎌田千奈美 | —     |       |       |       |
| 第42期 | 村上嶺四郎 | 山下 幸紀 | 第55期 | 田代 典夫 | 山科 賢児 | 第68期 | 南場 研一 | 古本 智夫 | 第81期 | 那須 裕也 | 久保田玲子 | 第94期 | 原田 拓弥 | 田中 翔  |       |       |       |
| 第43期 | 石川 睦男 | 三上 一成 | 第56期 | 蔵田 潔  | 武田 宏司 | 第69期 | 外丸 詩野 | 中島 泰志 | 第82期 | 伊東 慎市 | —     | 第95期 | 長谷 早紀 | 保木 昌仁 |       |       |       |

告知板

＜教授就任挨拶＞



富山大学  
学術研究部医学系  
公衆衛生学講座  
教授 吉岡 英治  
(71期)

2025年10月1日付で、富山大学学術研究部医学系公衆衛生学講座教授を拝命いたしました。1995年に北大卒業後、精神医学教室に入局し、小山司教授を

はじめ多くの先生方から臨床精神医学を学ばせていただきました。2003年から公衆衛生学教室（岸玲子教授）に大学院生として所属し、2011年以降は旭川医科大学に籍を置いて公衆衛生学の研究に携わってまいりました。北大で教わった「温かい目、鋭い目、大きな目<人に寄り添い、科学的に考え、社会全体を見る姿勢>」を忘れず、今後も公衆衛生の向上に努めていきたいと思っています。



新潟大学大学院  
医歯学総合研究科  
腎泌尿器病態学分野  
教授 大澤 崇宏  
(78期)

2026年1月1日付で、新潟大学大学院医歯学総合研究科腎泌尿器病態学分野教授を拝命いたしました。2002年に北海道大学を卒業後、同大学腎泌尿器外科

学教室に入局し、主に泌尿器悪性腫瘍領域の診療・研究・教育に携わってまいりました。このたびご縁をいただき、新潟の地で新たな挑戦をさせていただきます。北海道大学での経験を糧に、新潟の泌尿器科医療の発展に微力ながら貢献していきたいと考えております。今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

＜第 52 期 2026 年度同期会のご案内 — 卒後 50 周年記念同期会＞

2026年度の同期会を下記の通り開催いたします。

開催日：2026年9月26日（土）

会 場：ANAクラウンプラザホテル札幌

札幌市中央区北3条西1丁目2-9 Tel:011-221-4411

記念同期会の関連企画と懇親会に関する詳細は6月にご案内します。

本年は52期の卒後50周年の年にあたります。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。なお、同日には北海道大学創基150周年記念式典・祝賀会も開催されますので、あらかじめご承知おき下さい。

52期評議員 櫻木範明／瀬谷 司

＜人事異動＞

＜辞 職＞

令和8年 3月31日 加藤 徳雄(76期) 放射線治療学教室 准教授  
(社会医療法人孝仁会札幌孝仁会記念病院 札幌高機能放射線治療センター長)  
岩崎 浩司(79期) 膝関節機能再建分野(産業創出分野) 特任講師  
(NTT東日本札幌病院)  
大野 陽介(82期) 消化器外科 助教  
(JCHO北海道病院)  
方波見謙一(82期) 救急科 助教  
(砂川市立病院 救命救急センター長)  
栗栖 宏多(82期) 脳神経外科 助教  
(聖マリアンナ医科大学 講師)  
遠藤 大介(83期) 婦人科 助教  
(旭川厚生病院)  
坂本 圭太(83期) 放射線診断科 講師(市立札幌病院)  
相川 勝洋(84期) 麻酔科 講師  
(北海道整形外科記念病院)

庄司 哲明(84期) 呼吸器内科 助教  
(医療法人法真会ひしかわ内科クリニック)  
鈴木 崇祥(84期) 法医学教室 助教  
(藤田医科大学 講師)  
中蘭 彬(84期) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 助教  
(鼻と副鼻腔のクリニック札幌 院長)  
高信 径介(87期) 附属司法精神医療センター 助教  
(北海道立向陽ヶ丘病院 病院長)  
安井悠太郎(92期) 循環器内科学教室 助教(未定)  
5月31日 大久保 亮(84期) 精神科神経科 助教(2026年10開院予定  
エルム北大前 こころのクリニック院長)  
8月31日 干野 晃嗣(83期) 麻酔科 講師(恵佑会札幌病院)  
＜定年退職＞  
令和8年 3月31日 渥美 達也(64期) 免疫・代謝内科学教室 教授  
(総合病院浦河赤十字病院)  
＜任期満了＞  
令和8年 3月31日 真部 淳(61期) 小児科学教室 特任教授(未定)



森本 裕二(62期) 麻酔・周術期医学教室 特任教授(未定)  
武田 真人(67期) 婦人科 特任助教(同科医員)  
田中 敏(71期) 死因究明教育研究センター 特任准教授  
(苫小牧市立病院病理診断科 診療部長)  
大塚 紀幸(75期) 病理診断科 特任講師(未定)  
高橋 俊行(83期) 医療・ヘルスサイエンス研究開発機構 特任助教  
(独立行政法人医薬品医療機器総合機構)

## &lt;採用&gt;

令和8年 4月1日 渡辺 正明(77期) 消化器外科I 講師  
本宮 真(78期) 整形外科 助教  
吉田 雅(79期) 消化器外科学教室I 特任研究講師  
相山 健(83期) 消化器外科学教室I 特任研究助教  
干野季美子(83期) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 特任助教  
内野 晴登(84期) 脳神経外科 助教  
高野 博信(84期) 消化器外科II 特任助教  
今泉 健(86期) 医療・ヘルスサイエンス研究開発機構 特任助教  
黒須 博之(86期) 婦人科 特任助教  
澤田憲太郎(86期) 消化器内科学教室 特任研究助教  
白石 真大(86期) 集中治療部 助教  
山崎 博之(86期) 婦人科 助教  
井戸川寛志(88期) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 助教  
長谷川祐太(88期) 血液内科 助教  
古御堂 純(88期) 泌尿器科 助教  
清水 寛和(89期) 医療・ヘルスサイエンス研究開発機構 特任助教  
水門 由佳(89期) 未来人材育成支援室 助教  
辻 康介(89期) 呼吸器内科学教室 特任助教  
麻生 里佳(90期) 免疫・代謝内科学教室 助教  
千葉 幸輝(91期) リウマチ・腎臓内科 特任助教  
山本 岳(91期) 呼吸器内科学教室 助教  
宮本 航大(93期) 皮膚科 特任助教  
加藤万里絵(95期) 腫瘍病理学教室 助教  
遠田 建(97期) 連携研究センター医学研究AI支援部門 特任助教

佐藤 賢文(会員2) 病原微生物学教室 教授  
7月1日 澤田憲太郎(86期) 消化器内科 助教  
森永 大亮(90期) 呼吸器内科 助教  
8月1日 佐々木雄輝(91期) 形成外科学教室 助教  
10月1日 鈴木 智貴(91期) 神経生理学教室 助教

## &lt;昇任&gt;

令和8年 3月1日 齋藤 理幸(80期) 眼科 講師(同科助教)  
4月1日 山崎美和子(78期) 解剖発生学教室 教授(同教室准教授)  
門間 太輔(83期) 保健科学研究院 准教授  
(スポーツ医学診療センター助教)  
常田 慧徳(90期) 放射線診断科 講師(歯学研究院助教)  
前田 拓(会員2) 形成外科学教室 教授(北大病院講師)  
8月1日 石川 耕資(84期) 形成外科学教室 准教授(同教室助教)

## &lt;所属換&gt;

令和8年 4月1日 釜場 大介(87期) スポーツ医学診療センター 助教(整形外科)

## &lt;その他&gt;

令和8年 4月1日 前田 好章(69期) 消化器外科学教室I 招へい教員(客員准教授)  
西原 広史(71期) 北海道がんセンター診療支援部 消化器外科部長  
(次世代病理イノベーション推進分野 招へい教員  
(客員教授)  
(慶應義塾大学教授/がんゲノム医療センター長)  
植木 伸也(74期) 消化器外科学教室I 招へい教員(客員准教授)  
(JA北海道厚生連旭川厚生病院副院長)  
加藤 徳雄(76期) 放射線治療学教室 招へい教員(客員教授)  
(社会医療法人孝仁会札幌孝仁会記念病院  
札幌高機能放射線治療センター長)  
岩崎 浩司(79期) 整形外科教室 招へい教員(客員准教授)  
(NTT東日本札幌病院)  
出倉 康裕(89期) 放射線治療学教室 招へい教員  
(勤医協中央病院 放射線科医長)

## 事務局からお知らせ

## 会費納入方法について

- 1.コンビニエンスストアでの納入(手数料無料) 会員未納額がある会員には、新聞5月号にのみコンビニ振込票を同封しております。
  - 2.銀行口座への振込(手数料は、会員負担となります。)
    - ・下記口座へお振込みください。
    - ・振込用紙等は金融機関備え付け用紙をご利用ください。
    - ・会費過年度分の滞納額がある方は、分割でお支払いいただくことも可能です。是非ご利用ください。
    - ・同姓同名の混乱を避けるため、氏名の前に、必ず卒業期あるいは個人コード(8桁)を記入してください。※会員以外の氏名や病院名は記入しないでください。
- 【記入例1】 50キ サトウイチロウ  
【記入例2】 11490301 サトウイチロウ

北洋銀行 北七条支店  
(普) 口座番号 4022794  
口座名義 北海道大学医学部同窓会  
連絡先 011-706-5007  
北海道銀行 札幌駅北口支店  
(普) 口座番号 1214823  
口座名義 北海道大学医学部同窓会  
連絡先 011-706-5007  
3.金融機関口座自動引き落とし(手数料は掛かりません。)

- ・事前に『預金口座振替依頼書』のご提出が必要です。
- ・依頼書は同窓会のホームページからダウンロードが可能です。(https://hokudai-med-dousou.com/onegai/html)

必要事項をご記入の上、同窓会事務局までお送りください。

## ドクター総合補償制度のご案内

同窓会では「ドクター総合補償制度」を創設し、現在、500名以上の会員が加入して、ご好評をいただいています。  
本制度には「医師賠償責任保険(勤務医向け)」、「医療・がん保険」、「所得補償保険」があり、団体割引が適用されるので割安な保険料で加入することができます。  
年度途中でも加入出来ますので、取扱代理店または同窓会事務局にお問い合わせください。

〈取扱代理店〉  
株式会社第一成和事務所  
〒103-8214 東京都中央区日本橋  
馬喰町1丁目12番3号  
Daiwa日本橋  
馬喰町ビル3階  
フリーダイヤル:0120-100-492  
E-mail:  
koumu@d-seiwa.co.jp  
〈同窓会事務局〉  
電話:011-706-5007  
E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp



## 新刊書紹介



## 北大式小児がんのキャンサーボード

真部 淳(61期) 編著  
中外医学社 5,940円

小児がんは、成人のそれとは全く異質

の特殊性を抱えている。多くが希少疾患であるというだけでなく、患児は常に成長の途上にあり、強力な化学療法や放射線治療は将来の身体発達や生殖機能に及ぼす晩期合併症のリスクを常に天秤にかけなければならない。さらに、意思決定の主体が患児本人だけでなく保護者を含めた家族全体にあるという複雑さだ。これら医学的、倫理的、社会的な課題が絡み合う現場において、医師一人の知見で「最善」を導き出すことには限界がある。

61期の盟友であり、今年退官となる北大小児科教授の真部淳先生が上梓された『北大式小児がんのキャンサーボード』の卓越性は、この限界を多職種の連携によって突破している点にある。チャイルドライフスペシャリストなどを含めた専門職が自らの視点を持ち寄りながら議論を重ね、より良い医療を模索している。そこでは、見落とされがちな「家族の葛藤」までが、治療計画に反映されていく。その過程からは、患者中心の医療とは何か

を真摯に考え続ける医療者たちの姿が伝わってくる。このような議論を経た厚みのある合意形成は、家族の納得感を高め、医療チーム全体の信頼関係を強固にするとともに、患児を「病巣の持ち主」としてではなく、「人生を歩む一人の子供」として全人的に捉えることを可能にしている。  
小児がん診療に関わる医療者はもちろん、広く医療に携わる人々、さらには患児の家族にも読んでいただきたい一冊である。(61期 松村欣也)

次号に新刊書紹介をご希望の方は、下記の要領でお送りくださいますよう、お願いいたします。

【原稿締切日】 2026年7月31日(金)までにお送りください。  
【字 数】 本文600字以内でお願いいたします。※本文の前に「タイトル」、著者名(または編集者・監修者名等)フリガナ(卒業期)、出版社名、全額(税込)を、本文の最後に執筆者名および卒業期を明記してください。

【表 紙】 表紙の画像をメールに添付してお送りください。  
【書評執筆者】 著者(編集者・訳者・監修者)以外の同窓会員(会員2も含む)に限ります。  
【原稿送付先】 furate@med.hokudai.ac.jp  
【掲 載 号】 新聞185号(9月号、9月末頃発送開始予定)



## 百年記念館の利用について

北海道大学医学部百年記念館は、原則北海道大学医学部及び関係部局が主催する授業及び行事、また、同窓生の交流の場としてご利用いただけます。なお、見学、利用に際して事前予約が必要のため、ご利用希望の際は庶務担当まで直接ご連絡願います。

### お問い合わせ先

北海道大学医学系事務総務課庶務担当

TEL：011-706-5004 FAX：011-717-5286

E-mail：shomu@med.hokudai.ac.jp

【受付時間】月曜日～金曜日(年末年始・祝日を除く)午前10時15分から午後5時まで

※同窓会事務局では予約および予約状況の確認は出来ません。

### 1F 大会議室 [収容人数：54名]

【設備】

椅子／会議用机／電動スクリーン／液晶プロジェクター(固定)／ワイヤレスマイク

### 2F 多目的ホール [収容人数：42名]

【設備】

椅子／電動スクリーン／液晶プロジェクター(固定)／ワイヤレスマイク

### 2F 小会議室 [収容人数：18名]

【設備】

椅子／会議用机

## 【お知らせ】北海道大学医学部公式SNS (X、Instagram、Facebook)を開設しました

平素より本学医学部の教育・研究活動にご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、本学医学部の最新情報や日々の活動の様子をより多くの方々に、よりタイムリーにお届けするため、新たに公式SNSアカウント(X、Instagram、Facebook)を開設いたしました。

今後は、ホームページのお知らせと連動しながら、以下のような情報を積極的に発信してまいります。

● **最新の研究成果・プレスリリース** (医学部各教室で発表された最新の医学研究論文のお知らせ)

● **イベント・公開講座のお知らせ** (各教室や附属病院で開催されるセミナー等のご案内)

● **キャンパスライフ・学生の活動** (医学部での学びや実習、部活動などの様子)

受験生や在学生、卒業生(同窓生)の皆様はもちろん、医療関係者や地域の皆様にも楽しんでいただけるコンテンツをお届けしていく予定です。

ぜひ、各アカウントの「フォロー」や「いいね!」をよろしくお願いいたします。

### ■ 公式SNSアカウント情報

X (旧Twitter)



アカウント名：北海道大学医学部広報

ユーザーネーム：@Hokudai\_Med\_PR

URL：https://x.com/Hokudai\_Med\_PR

### Instagram



アカウント名：北海道大学医学部広報

URL：https://www.instagram.com/hokudai.med.sns/

### Facebook



アカウント名：北海道大学医学部広報

URL：https://www.facebook.com/profile.php?id=61587075772465

今後も教育・研究の発展とともに、社会に向けた積極的な情報発信に努めてまいります。引き続き、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 北海道医学会からお知らせ

### ○北海道医学会について

北海道医学会は北海道における医学と医療の進展を図るため、大正12年に発足した学術団体です。現在は、北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学の医師、医学研究者のほか本会の目的に賛同される方々を一般会員として、また道内の主要医療機関には特別会員として、本会に功績のあった方々には名誉会員としてご参加いただいております。

### ○主な活動内容

- ・機関誌「北海道医学雑誌」の発行(5月、11月：令和7年は第100巻)
- ・学術集会「市民公開シンポジウム」の開催(10月下旬：昭和42年から実施)
- ・若手研究者への「研究奨励賞」の授与(年3名以内に賞状及び副賞：昭和58年から実施)

※ 北海道医学雑誌は大正12年8月の創刊以来、戦中、戦後の一時期を除いて今日に至るまで継続して刊行され、北海道における医学総合雑誌として広く認知されています。

本誌は原著論文、学位論文以外にも、「研究会」「教室だより」などのセクションにおいて会員の様々な活動を紹介しています。

### ○会員の状況(令和8年6月1日現在)

- ・一般会員 529名(年会費 4,000円)
- ・学生会員 6名(年会費 1,000円)
- ・特別会員 73団体(年会費 25,000円)
- ・名誉会員 177名

### ○入会のご案内

本会に入会されていない同窓会員におかれましては、是非ご入会いただきますようご案内申し上げます。医療機関としてのご入会も歓迎します。

なお、会員には機関誌「北海道医学雑誌」を発行の都度お届けいたします。

入会方法は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。

・投稿規定、掲載料等は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。

### ○お問い合わせ先

北海道医学会事務局  
(北海道大学医学部百年記念館内)

電話：011-706-5007

E-mail：digakkai@med.hokudai.ac.jp

https://www.hokkaido-med-society.org/



### 北海道医学会 事務局職員の紹介



5年間に亘り、北海道医学会事務局に勤務されておりました佐藤 道子さんが3月末をもって退職され、4月から新たに、西村 公子(にしむら きみこ)さんが仕事を引き継がれました。

西村さんは、以前に北大職員として、医学系事務部や北大病院でも勤務されたことがあります。旅行と読書、そして美味しい料理を楽しむのが好きで、特に甘いものには目がないとのこと。

一日も早く仕事に慣れ、皆様のお役にたてるよう頑張りたいとのことですので、よろしくお願いいたします。

北海道医学会では、北海道医学雑誌への投稿をぜひお待ちしております。



## 過年度会費が2年を超える会費未納者と 同窓会員名簿の発送について

2014年度より、過年度分の未納会費が2年分(1万円)を超える会員の方には、**会員名簿および同窓会誌の送付を停止**させていただいております。

本年度の同窓会員名簿につきましては、**印刷部数確定の都合上、送付をご希望される未納者の方の納入期限を2026年8月31日まで**とさせていただきます。印刷経費等の高騰により予備部数を削減し、経費節減に努めておりますので、何卒ご理解とご協力をお願いいたします。

なお、**過去の名簿および会誌につきましては、在庫不足によりお送りできない可能性が高い**ことを、あらかじめご了承下さい。

## 【令和8年度同窓会員名簿】 記載事項確認のお願い

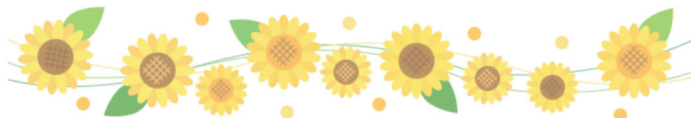
本年度は名簿発刊の年にあたり、11月下旬の発送を予定しております。

最新の登録内容は、新聞に同封している「登録情報変更届(兼宛名台紙)」または「コンビニ払込票(兼宛名台紙)」右上の「住所登録内容確認」欄でご確認いただけます。変更がある場合は、**同封の「会員登録情報変更届」を9月25日(金)までにご投函ください**。FAXあるいはE-mailのご連絡も可能です(お電話以外でお願いいたします)。

ご返信がない場合は、変更なしとして従来の登録データを掲載いたします。

なお、期日以降のご連絡は印刷に間に合わない可能性がございますので、ご了承ください。

※名簿の校正は、各期評議員または各期の担当者が自分の卒業期のみを担当しております。会員名をかたる不審な問い合わせには十分ご注意ください。



## ご逝去者 新聞183号発行以降、ご連絡いただいた方を掲載しております。

| 御逝去年月日 | 氏 名     | 期  | 御逝去年月日 | 氏 名     | 期  |
|--------|---------|----|--------|---------|----|
| 2025年  |         |    | 2月 3日  | 西 田 聖   | 39 |
| 2月19日  | 石 井 宏   | 36 | 2月 7日  | 中 山 紀 夫 | 51 |
| 10月15日 | 下斗米 啓 介 | 39 | 2月15日  | 青 柳 孝 一 | 38 |
| 12月 8日 | 渡 辺 卓 二 | 42 | 2月16日  | 田 村 堅 吾 | 42 |
| 12月18日 | 福 原 啓 之 | 36 | 2月21日  | 松 井 吉 彌 | 39 |
| 12月26日 | 銘 蒯 正 治 | 60 | 2月25日  | 橋 本 正 信 | 42 |
| 2026年  |         |    | 2月27日  | 本 間 行 彦 | 37 |
| 1月     | 清 野 隆 吉 | 49 | 3月18日  | 篠 原 正 裕 | 49 |
| 1月 9日  | 土 田 眞美子 | 34 | 3月26日  | 寺 倉 直 明 | 59 |
| 1月17日  | 菅 野 大 己 | 52 | 4月 9日  | 中 野 リ ヨ | 34 |
| 1月20日  | 石 井 出   | 43 | 4月18日  | 高 下 泰 三 | 32 |
| 1月23日  | 小 森 吉 夫 | 30 | 5月10日  | 津 田 久仁子 | 60 |
| 1月23日  | 高 村 春 雄 | 33 | 5月18日  | 芳 野 宏 一 | 43 |
| 1月29日  | 村 上 忠 司 | 29 | 5月26日  | 吉 岡 光 明 | 50 |
| 1月31日  | 木 下 知恵子 | 80 |        |         |    |

## 同窓会新聞・会誌等の Web 活用について

要回答

## アンケート ご協力をお願い

前回の同窓会新聞第183号で実施した確認アンケートの回答率が1.87%と十分なご回答を得られなかったため、改めてご協力をお願いするものです。

昨今の財務状況の改善を目的として、昨年11月に開催された同窓会理事会・評議員会において、今後の新聞・会誌・名簿の情報発信方法について協議を行い、**Web(インターネット)の活用を進めていくことが決定**されました。(令和8年秋 実施予定)

つきましては、会員の皆さまが紙媒体での送付を継続して希望されるのか、あるいはWebでの閲覧を推奨いただけるのか、そのご意向を確認させていただきます。

**回答は、以下のいずれかの方法にてお願いいたします。**

本新聞に同封しておりますハガキにご記入のうえご返信いただく。



下記QRコードを読み取りご回答いただく。



**7月31日(金)までにご回答願います。**

期日までに回答をいただけない場合は、「印刷物不要」と判断させていただきます。郵送継続をご希望の方は必ずご回答ください。

## 会員名簿・同窓会誌の処分にお困りの方へ

個人情報に掲載されておりますので、ご不要になりましたら適切な処分をお願いいたします。処分が困難な方は、同窓会事務局にお送りください。**なお、恐縮ですが送料は各自でご負担願います。**

○送付先

〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目  
北大医学部百年記念館内  
北海道大学医学部同窓会事務局

**【冊数が多い場合】**日時指定の上、必ず「百年記念館」に直接配達されるよう指示してください。

※月曜日～金曜日(祝日、年末年始を除く):10時～16時まで

※可能であればヤマト運輸をご利用下さい(ゆうパックなどは医学部庶務宛に配達されてしまいます)。

## 一面の写真説明

復活

高橋 敦(42期)

Brahms ドイツレクイエム第2楽章に「人はみな草のごとし、草は枯れ、花は散る」と唱われ、Petros 第一の手紙を

引用した澄明な葬送行進曲と解釈される。Mahler 交響曲第2番「復活」の終楽章は自然でも宗教でもない壮大な哲学的清福。5月中旬、北大植物園を彩るズミ(コナシ)は「復活」の形態表現を思わせる。鮮橙色の花はエゾヤマツツジ。

## 編集後記

季節は夏に向かって急に進んでいくところですが、近年は北海道も早い時期から熱中症への注意や対策が求められるようになってきました。本音を言えば、もう少し緩やかに変化してほしいところはあるものの、私たちが合わせていく必要があります。本号では、昨年度から今年度にかけての旅立ちや新しい出会いに関わるお知らせなどが多く掲載されて

います。みなさま慌ただしい日々と存じますが、ひと息つけるときに、ぜひゆったりとした気持ちで本誌をご一読ください。また、今年から北海道大学医学部公式SNSも開設されました。本誌とともども、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

(80期 松島 理明)